シオンの議定書

國際政經學會調查部譯編

シオンの議定書（プロトコール）

目次

第一　吾が主張の根本―力は權利を生む……………………一頁
第二　經濟戰に依る國際政府の準備…………………………三
第三　吾が世界征服の手段……………………………………一五
第四　物質主義と宗教破壞……………………………………二四
第五　無政府に依る國際金權の確立…………………………二六
第六　土地の取得と投機の普及………………………………三二
第七　世界大戰の豫言…………………………………………三五
第八　政治の變遷………………………………………………三七
第九　宣傳の方法………………………………………………三九
第十　現存憲法の廢止…………………………………………四四
第十一　世界征服と吾等の寡頭政治…………………………五三
第十二　新聞と其の利用法……………………………………五六

第十三　輿論攪亂の方法……………………………………六三
第十四　世界を一神教とするために……………………………六八
第十五　マッソヌリーと敵粉碎の方法…………………………六九
第十六　教育の廢止……………………………………………八二
第十七　法學者と宗教家との信用失墜の方法…………………八六
第十八　混亂の醱生……………………………………………九〇
第十九　民衆と其の指導者……………………………………九三
第二十　金　融…………………………………………………九五
第二十一　公債と借款…………………………………………一〇六
第二十二　國際金權支配の福祉………………………………一一〇
第二十三　國際金權の金縛り…………………………………一一三
第二十四　吾等の王……………………………………………一一四

解説

（一）プロトコールの沿革

革命は猶太人の本性である。革命とは猶太民族自らの革命でない。猶太人の多數又は若干が居住する國に於ける革命である。即ち世界革命のことである。更に、世界制覇が彼等の目的である。猶太人の革命的本性に關しては、猶太人側に多數の文獻がある。卑近な例でもベルナル・ラザール、エリ・エベルラン等のものがあるが、猶太人の世界革命の野望を最も深刻に現したのは、「シオン聖賢のプロトコール」である。

「シオン聖賢のプロトコール」と謂ふ書物が一度出版されると、それは各國に流布された。

一九一九年の終りに英京ロンドンで「猶太禍」と謂ふ小冊子が出版された。之は今世紀の始めに露西亞人セルゲ・ニルスに依つて露譯されたプロトコールの斷片の英譯である。

此の英譯八十頁許りの小冊子が如何に當時の英國を震撼したかは、輕々しく物を書かない筈の倫敦タイムスでさへ二段抜きの長論評を掲載したことでも判る。タイムスはプロコトールを分析して其の内容を吟味した。同時にプロトコールに對する猶太人側の異議と辯解とを商量した。

タイムス曰く

「此の小冊子は公平に仔細に批判を要するに拘らず、今日迄殆ど不問の儘に通つてゐる。猶太派の機關紙は此の小冊子の本性を暴露すると謂ふて、其の實際に發表したものは此の小冊子の著者が無名だと謂ふ如き、瑣末な點に縋んだだけのものである。何人をも滿足させる徹底的のものは一も出ない許りでなく、彼等は全く此のプロトコールの内容に觸れて居ない。」（若宮氏著「猶太人問題」七六頁參照）

此の英譯本がエア・アンド・スポテスウッドから出版されると、殆んど時を同じくして獨逸ではゴットフリート・ツル・ベークに依つて獨譯され、「シオン聖賢の祕訣」と謂ふ題で出版された。當時の獨逸の外相猶太人ラテナウが殺されたのは、此の獨譯のプロトコールが與つて力あつたと謂ふ。此の理由で其の出版者は時の社會黨政府から五百馬克の罰金を課せられた。

此の獨譯本の序言にはセルゲ・ニルスと其の露譯に關する說明があつた。其の大略は次の通だ。

「セルゲ・ニルスは非常に學究的で博學であつた。彼は當時ウクライナに定住して居たが、彼の佛蘭西文で書かれたプロトコールの斷片を手に入れ、それを露譯したのは一九〇一年のことである。

シオン聖賢のプロトコールの第一版は一九〇五年にペトロスブルグでニルスの著書「小事中の大事―焦眉の政治問題としての反基督教」の附錄として出版された。此の本は其の後「吾等の災厄の書」と謂ふ題で再刊され、著者の名もなしに現はれた。一九〇七年には露作家ブートミが「人類の敵」と謂ふ題名で、プロトコールの新譯を作り、ペトロスブルグの聾唖協會の印刷所で印刷さした。又別版が一九一一年セント・セルゲ朝時代にニルスの援助を以て出版された。其の第二版は一九一二年に、第三版は一九一七年に出版されて居る。

ルオーヴ公内閣の時と、ケレンスキーの天下の時に露國の警察は書店に發見されるプロトコールの殘部を殘らず押收燒却し、プロトコールの所持者をも嚴罰に處した。」

英國博物館に所藏するものは一九〇五年ツァルコイ・スロで印刷されたものである。

一九一七年米國ボストンで英譯されたものにはセルゲ・ニルスのプロトコールの起原に關する說明がある。

「バーゼルで開催された猶太シオニストの第一回の會議の議事錄は一九〇一年に露西亞の中部シエルンの貴族アレキス・ニコラエヴィッチ・スホーティンが祕密に寫しニルスに渡したものである。スホーティンはニルスにプロトコールの中より基督教を守るに必要な部分のみを拔萃

し、政治問題をも無視するやう要求した。

セルゲ・アレキサントロヴィッチ大公はニルスの文書の送付を受けたが、「時既に遲し」と謂ふ簡單なる言葉を添へて返送した。」

プロトコールの斷片が如何にしてスホーティンの手に入つたか、之には獵奇的挿話があるが、說者に依つて順序が多少相違するので餘りに信を置くことが出來ない。

信ずべきことは、一八九七年バーゼルに於て開催されたシオニスト會議の議事錄が書類入金庫から盜まれたことである。一九〇一年の猶太シオニストの回章は、ヘルツル博士が會議の祕密が餘り信賴出來ない人物に洩れたことを痛く溢してゐると報じた。

プロトコールは一度英國で飜譯され問題になると、佛蘭西に移り、洪牙利に移り、波蘭に移り、墺太利、伊太利、獨逸に移り、騷ぎを大きくした。米國でもプトナム商社とルイス・マーシャルとの有名な事件が起つた。日本でもそれより四五年後に完譯が出版された。

(二) プロトコールの眞銘

プロトコールが猶太人の筆になつたと謂ふ主張に對して、猶太人は熱心に異說を唱へた。之に關してモスコウの猶太死刑執行人の手より奇蹟的に逃れた一露人は「ラ・ヴィエユ・フランス」一

九五號に次の記事を書いた。

「猶太禍とは、長い間の研究と準備とから成立つたプランに依つて猶太人が世界征服をすることである。プロトコールの眞僞に對して批判をすることは、單なる氣晴らしに過ぎない。最も重大なことは、プロトコール其の物の眞僞でなく、プロトコールの豫言が如何に正確に吾等の目の前に實現せられつつあるかと謂ふことである。

一八六九年プラーグ猶太人墓地にある猶太教會長シメオン・ベン・イホダの墓前でライヒホルン法師が聲明した言葉とプロトコールとの相似性は不思議である。此の演說はリードクリフに依つて出版された。彼は其の一生を此の出版事業に打込んだ。決鬪で倒れたラッサールはリードクリフをライヒホルン法師に引合はしたのである。ライヒホルンの言葉はプロトコールの中にもつと詳しく述べられてゐる。

猶太人レイナック、リュシアン・ウォルフ等が如何に筆を振つても一九〇五年に印刷されたプロトコールの內容と一九一四年以後各國に起つた事實との間に一脈の共通點が見出されると謂ふ印象を弱めることは不可能である。」

プロトコールが眞に猶太人の筆になつたものであるか、或は僞にせんとする者の僞作であるか、

其の何れに拘らず、プロトコールが猶太人の世界革命のプログラムを代表するものであることに異論はない。其の豫言的性質と過去に於ける或種の祕密結社の取決めに恐ろしい程似通つてゐる點とで、プロトコールは祕密結社の內部事情に精通し、其の理想を結社特有の言葉で發表し得る者の筆になつたことは明らかである。

一八六四年に「マキャヴェルとモンテスキューとの間の地獄の對談」と題する書物が、モリス・ジョリに依つて出版されたが、此の書とプロトコールとの類似は偶然とは謂はれない程である。倫敦タイムスも一九二二年八月にはプロトコールに關する記事に於て、ニルスはモリス・ジョリの著書の大部分を寫しとつたものであるとさへ言つたこともある。

最近になつて、獨逸のフライシャウアー大佐と猶太人との間に、プロトコールの眞僞に對する裁判が提起され、數年に亙つて瑞西ベルンで爭はれた。此の時までは、事實を以てプロトコールの眞銘を證する以外には、その眞銘を證する方法がなかつた。卽ち政治上の各種の事件、特に最近數十年間に於ける事件が、猶太人とフラン・マッソヌリーに影響されてゐること、之等の事件がプロトコールの指示する通りに展開されてること、叉超國家的祕密力の活動が、プロトコールの發表する精神と目的とに全く一致してゐることが、容易に判斷されたのである。

併しながら、プロトコールが猶太人に編まれ、猶太人の改革案として認められてゐたことを直接に證明する方法は、ベルンに於ける裁判の間に可能となつた。フライシャウアー大佐に同情を有する者が、大佐に送つた資料に依つてそれが可能となつたのである。プロトコールが猶太人の作品であることは、三人の猶太人―二人の猶太教法師と一人の改宗猶太人―に依つて承認された。

一九〇一年、波蘭の小都市ショッケン（現在のスコケ）に猶太教の助教師ルドルフ・フライヒマンが住んでゐた。フライヒマンの上にはヴァイルシェンフェルト大法師がゐたが、或る時フライヒマンは大法師に非常な侮辱を受け、猶ほ其の許婚を手込めにされた。フライヒマンは激昂のあまり、親友の非猶太人ノスコヴィッツの許に走つた。彼は親友の前で彼の悲痛を訴へ、猶太人の陰謀を罵倒し、プロトコールについても暴露した。

ノスコヴィッツは、其の後一九〇六年に、彼の親密な猶太教法師グルンフェルトにプロトコールの眞僞について訊ねた。グルンフェルト師の回答は全く意味深いものであつた。彼曰く「ノスコヴィッツ君！君は物好き過ぎて、知るべからざることを知らうとしてゐる。之について語る權利は私にはない。又君も之について知る權利がない。何うか氣をつけて呉れ、君が生命の危險に陷るや

うなことがあるといけないから。」最後の證人は猶太系亡命露人のサウエリ・コンスタンチノヴィチ・エフロンである。エフロンは早くからオルトドックス派の基督教に改宗してゐたが、猶太人の祕密は可成り詳細に知り、小說に、戯曲に、猶太人を攻撃した。猶太人は彼に復讐するの機會を狙つてゐた。其の時に露西亞革命が起り、彼はセルビアのサバッツ地方に逃れた。彼のプロトコールの眞銘についての暴露は、巴里白系露人機關紙「共同の目的」に宛てたもので、同紙は其の掲載を見合はしてゐたが、ベルンに於ける裁判が開始されると、ワシリ・エスの好意に依つてその原稿が關係者に送られたのである。

フライヒマン、グルンフェルト、エフロンの三人の猶太人の言葉はプロトコールの眞銘を證するに充分である。ベルンに於ける裁判に就ては玆に詳細を述べない。

（三）　プロトコールの執筆者

プロトコールが流布すると同時に此の豫定書の作者がシオニスト團の自稱創始者テオドル・ヘルツルであると謂ふ說が立つた。

プロトコールの流布と同時にプロトコールの僞作であると謂ふ聲が、獨太人側から叫ばれたが、テオドル・ヘルツルを辯護する者は一人もゐなかつた。プロトコール辯護の戰士の大立物はルシ

アン・ウォルフ、ジォゼフ・レイナック、猶太法師ステファン・ワイズ等であるが、彼等は一人としてヘルツルを辯護しなかつた。マックス・ノルドーやリシャール・ゴッタイル教授等はヘルツルの最も親しき友人であつたが、一言の辯解の筆も執らなかつた。

歐米の讀書界でも之の爲にヘルツルが眞の作家であると謂ふことを疑ひ出した。

綿密に調べて見ると、プロトコールの眞の作者はヘルツルではない。夫れは左の理由で證明される。

一、プロトコールは最初ヘブライ語で書かれたのである。之は專門家の調査のみでなく、一八九〇年頃オデッサに住むだ人で當時同市の猶太人の間にヘブライ語のプロトコールが流布されてゐたのを見たものがあり、後まで夫れを所持してゐたものもある。併しテオドル・ヘルツルはヘブライ語に通じてゐなかつた。

二、プロトコールは猶太精神の旺盛な者の筆になつたものであるが、ヘルツルは猶太的教育を受けたことはなく、又其の精神に民族意識を缺いてゐた。

三、プロトコールは天才の筆になるものであるが、ヘルツルには才氣の縱橫はあつても天才の閃きがなかつた。

四、プロトコールには、非猶太人に對する極度の憎惡を表現してゐるが、ヘルツルは西洋社會に同化した猶太人として之程の憎惡を非猶太人に對して抱いてゐなかつた。

五、プロトコールの筆者は思想家であり、猶太民族の指導者である。ヘルツルは併し猶太民族の指導者でなかつた。彼がシオニストの指導者と叫ばれる樣になつたのも一八九七年のバーゼルの會議以後に於てである。

以上の理由で、プロトコールの筆者は外にあると謂ふ說は、多くの考證家に依つて唱へられた。プロトコールの筆者として最も有力な嫌疑者は、私的生活に於てはアッシャー・ギンツベルクと呼ばれ、同族の間に於てアハド・ハーム（民族の一人者）の敬語で呼ばれてゐる男である。併し「猶太聖賢のプロトコール」に發表されて居る思想の創作者をアッシャー・ギンツベルクであると斷ずるのは大きな誤りである。アッシャー・ギンツベルクは、彼に先立つ全ての時代、全ての世紀の相續者である。彼は熱心に猶太哲學の鎖を手繰り寄せたに過ぎない。彼は猶太教の上に築かれた各思想を吸收したに過ぎない。彼は各種の思想を汲んで、其の綜合を作り、プロトコールの中に夫れを表現したのみである。

聖賢（Sage）と謂ふ言葉は猶太教法師、豫言者、思想家等に其の死後に與へられる敬語である。

其の意味から謂つても、ギンツベルクは、「猶太聖賢のプロトコール」の眞の著者でない。プロトコールは一猶太人の著作でなく、民族の精神の發露である。

最後に學會は、本プロトコール全文を飜譯するに當り、主としてロージェ・ランブラン監修の佛譯に依り、左の諸書を參考としたものであることを附言したい。

Roger Lambelin; "Protocols" des Sages de Sion. Paris, 1933.

Urbain Gohier; Protocols des Sages d'Israël. Paris, 1925.

Mgr Jouin; Les Protocols des Sages de Sion. Paris, 1927.

Zealous Enlightenment League; The Ulimate (IF).

Victor E. Marsden; Protocols of the learned Elders of Zion. Houston, 1934.

Alfred Rosenberg; Die Protokolle der Weisen von Zion und die Jüdische Weltpolitik. München, 1924.

Gottfried zur Beek; Die Geheimnisse der Weisen von Zion. München, 1933.

プロトコール　第一

吾が主張の根本——力は權利を生む

單なる言辭をはなれ、各思想を本質から研究し、比較と演繹とに依り事態を明らかにしよう。其れ故に吾等自らとゴイム（註）との兩見地から吾等の說を作り上げよう。

下等なる本能を有する者は、高等なる本能に目覺めた者より數に於て遙かに多いことは注目に値する。此の事實に依つて、暴力と威嚇とが、政治上に最大の效果を收めるので、學者の議論が效果を收めるのではない。如何なる人間も權力を欲する。彼等は、出來得れば自ら支配者にならうと欲する。而も彼等自身の幸福のために團體の利益を犧牲にしようとしない者は、極く少ない。

註——ゴイは猶太語で豚の意であり、猶太人が猶太人以外の者を呼ぶ言葉である。ゴイムはその複數である。

二　權力は力である

人間と呼ぶ殘忍なる動物を馴らして來たものは抑も何であるか？　彼等を現在まで導き來たものは何であるか？

社會創設の初めに於て人間は獸的な暴力に屈從した。後に法律に服從した。法律も假面を被つた暴力に外ならない。

其れ故に、余は自然の法則に從ひ、權力は暴力の中にあると結論する。

三　自由主義は反つて眞の自由の敵である

政治の自由は思想であつて、事實ではない。此の理想は、一の黨派が政權を握れる他の黨派を踏み倒す目論見を立て、思想と謂ふ好餌に依つて民心を其の黨派に惹き寄せやうとする時に、如何に適用すべきであるかを心得なくてはならない。政權を握れる反對黨が、若し既に自由の理想即ち自由主義に感觸れて、此の理想のために既得の權利の一部を拋棄しやうとする場合には、此の問題は更に容易である。此處に吾等の說の勝利がある。弛められた權力と謂ふ手綱は、自然の法則に從ひ必ず他の騎手の手に握られる。何となれば、人民の盲目は一日も指導者なしに濟ますことが出來ず、また新しい權力は自由主義に依つて弱められた古い權力に取つて代るばかりであるからである。

四　金力は宗教を殺し、無政府主義は群衆を吾等のものとした

今から後、金力は自由主義の支配力に取つて代る。曾ては信仰が世を支配した時代もあつた。自由の理想は實現さるべきでない。何となれば、誰れも適當なる方法で之を用ふることを知らないか

らである。暫くの間奴等をして自ら治める儘にして充分だ。自治は軈て放縦となる。斯くて軋轢は生じ、軋轢は卽ち社會鬪爭となり、國家は焰の中に投げ入れられ、其の偉力は灰燼に歸する。國家は其の持前の混亂のために弱められ、內亂に乘じた外敵のために瓦解に導かれる。斯くて國家は窮地に陷る。國家は吾等の力の儘となる。

五　金力は吾等の掌中にある

吾等の掌中にある資本の獨裁は、奴等の前に一本の藁（外債）を差出すのである。而して奴等は沈むことを恐れて、嫌でも應でも、其れに縋らざるを得なくなる。

六　目的のためには手段を選ばず

自由の精神の故に、此の種の論議を不德義なものと考へる者があれば、余は反問する、「國家が二つの方面から敵を受ける場合、若し外敵に對して如何なる手段を執ることをも許されてゐるとすれば、例へば攻防の計畫を敵に知らしめず、夜陰に乘じ、又は優勝なる軍を用ゐて敵を破ることも許されてゐるとすれば、社會の秩序と私有財產制度とを亂す更に不良なる敵に對して、同一手段を用ゐることが不法であり、不道德であるだらうか？」

七　無政府主義の宣傳

如何なることも表面的にしか理解せず、非論理的撞着に陷ることを許されて居る群衆にとつて矛盾と屁理屈とは誘惑的である。此の時にあたつて思慮ある忠告と說服とに依り、群衆を導くことは理性的精神の良くするところだらうか。奴等は、彼等が下層民であると否とに拘らず、淺薄な感情、盲目的信仰、慣習、傳統及び主觀的說に依つてのみ支配される。奴等は最も論理的なる了解にすら反對する黨派の奴隸となる。群衆の決議の全てはまぐれ當りであるか、其れとも、少くとも表面的の多數決に依るのみである。政治的眞相の無理解の爲め群衆は非理論的なる議決をなし、一種の無政府狀態は政府內に醱酵される。

八　政治は道德でない

政治は道德と何等の共通點をも有しない。道德に支配さるゝ政治家は、眞の意義の政治家ではない。其れ故に彼の政治上の權力は安定でない。政治家は策略と僞善とを用ゐなくてはならない。民衆の主たる性質―正直と率直―とは政治上の罪惡である。何となれば、此等は最も有力なる敵にも優つて、能く王位を覆すことが出來るからである。此の性質は奴等獨特のものであるが、吾等は之を模範とすべきでない。

九　力は權利である

吾等の權利は力にある。「權利」なる言葉は單なる抽象的命題に過ぎず、何等の論理的根據もない。此の言葉は單に次の樣な意義を持つて居るに過ぎない。「吾に吾が欲するものを與へよ、それに依つて吾れ自らが汝より强いと謂ふことが證據立てられるやうに。」

權利は何處に始り、何處に終るか。不完全な組織を持つ國家に於ては自由思想のために無數の權利は失はれ、法律も政府も有名無實となる。而して斯かる國家に於て、余は一の新しい權利の成立を見る。卽ち一切の既存の秩序と規定とを覆すの權利、法律に手を下すの權利、而して一切の制度を改造し、力で得た權利を自ら好んで吾等のために拋棄しようとする者を支配するの權利が之れだ。

一〇　猶太祕密力の不撓性

各國の政治力が動搖してゐるに反して、吾等の力は他の如何なる力よりも永續的であり、無敵である。何となれば、吾等の權力は如何なる奸策も之を根こぎにすることが出來ない程に確立する迄は表面に現はれないからである。

一一　自由主義の破壞性、目的は手段を是認す

吾等が現に採用しなければならない一時的不正手段から、確乎たる政治の成立と謂ふ善事が生れ

るだらう。此の政治は、自由主義の爲め臺なしにされてゐる國民生活の運轉を常態に復せしむるであらう。結果は手段を是認する。吾等が計畫を遂行する爲には、善事と道德とよりも、必要と利益とに注意を拂はなければならない。吾等の眼前には、方針と戰略的に說明する一の計畫とがある。吾等は此の計畫を捨てることは出來ない。何故なら吾等は數世紀の努力の結果を失ふことを恐れるからである。

一二　群衆の盲目性と無氣力

吾等の計畫遂行の爲には、群衆の卑劣性と優柔性とを考へる必要がある。群衆が其の生活と其の幸福とを理解し、尊敬するの能力を缺いてゐることを考慮する必要がある。又群衆の能力の盲目的で、非道理的で、推理することなく、或は右に或は左に、耳を傾けることを考慮する必要がある。盲目者が盲目者を導く時には、只だ斷崖に導くのみである。其の故に奴等の中の成上り者が、如何に天才的能力を惠れてゐても、政治的無理解の爲に、全國民を誤らずに指導することを望むことが出來ない。

一三　政治の祕訣、政黨の無力

幼時より政治的訓練を受けた人物丈が、政治的語句と政治の實際とを解することが出來る。

自ら好むに委された群衆、即ち奴等の中よりの成上り者の支配に委された群衆は、權力を爭ふ黨派間の葛藤と、其れから生れる擾亂との爲に自滅するに至る。冷靜に、內輪揉めをせず、個人的利害を度外視した態度で、國事を處理して行くことは群衆にとつて可能であらうか。外敵を防ぐことは彼等にとつて可能であらうか。其の不可能は勿論である。何となれば、一般群衆中の普通頭腦の所有者が考案した計畫が統一を失ひ、理解されることも實現されることもないからである。

一四　獨裁は政治の唯一の方法である

遠大にして明確なる計畫を實行し、政治機關運行上の各般の事務を處理し得る爲政者は只だ一人あるのみである。故に國家にとつて有益であり、また國家が議定する計畫を遂行することの出來る政府は、責任ある一個人の手に委ねらるべきである。絕對的專制なしに、文明は存在しない。政治は群衆の業績でなく、指導者の偉業である。群衆とは、如何なる場合にも野蠻性を發揮する野人を謂ふのである。自由が群衆の手に與へられた時には、其の瞬間に、群衆は自由を無政府狀態に變へる。此の無政府狀態は元々野蠻性の骨頂である。

一五　暴飮、人間の弱點、放蕩

ウィスキーに醉ひ、葡萄酒に自らを忘れてゐるあの動物を見よ。彼等には自由と同時に、暴飮の

權利が與へられてゐる。吾等は到底、吾等の同族を此の狀態に置くことが出來ない。ゴイムは強い酒に浸つて馬鹿になつてゐる。奴等の靑年は古典の過度の勉强の爲に愚鈍になり、其の上彼等は吾等の手先、卽ち彼等の富豪の家庭に雇れてゐる家庭敎師、下婢、保姆、其の他及び彼等の娛樂場に於ける吾等の婦人に依て、早くから惡習に誘惑される。之等の婦人の中に、自ら好むで放蕩と贅澤とを模倣する所謂「社交界の婦人」を數へる。

一六　猶太的マッソンの原則――暴力と僞善

力と僞善、之が吾等の標語である。獨り力のみ政治に於て勝利を得る。別して此の力が政治家に必要なる才能の中に隱れてゐる場合に於て然りだ。新勢力の使者の足下に王位を讓ることを欲しない政府を征服する爲に、暴行强迫は根本的方針であり、欺瞞と僞善とは手段でなければならない。此の惡事は、目的の善に達する爲の唯一の手段である。此の理由で、目的を達成するに資する時には、賄賂、瞞着、奸計等を用ふるに吾等は躊躇しない。政治界に於ては、他人の財產を遠慮なく奪ふことも心得、若し斯くすることに依つて屈從を强制し權力を取得し得る場合には、之を爲すべきである。

一七　恐怖政治

此の平和的征服の必要上、吾等の政府は、戰爭の慘禍に代はるべき、餘り目立たず、併し更に有效な刑罰の宣告を與へるの權利を持つ。此の刑罰は群衆を恐怖させ屈從させる爲に必要である。正しい、けれども剛直な嚴格さは、最も容易に國家の偉力を保つ原動力であるが、斯くすることは吾等の利益であるばかりでなく、吾等の義務である。卽ち勝利を得る爲に、强迫暴行と僞善とは吾等の計畫を實行する爲の義務である。

打算主義の敎理は、其の敎理が採る手段と同じく有效である。其の故に單に手段の嚴格に依るばかりでなく、敎理の嚴格に依つて、吾等は勝利を得るであらう。又全ての政府を吾等の超政府に屈從せしめるであらう。全ての反抗を止める爲には、吾等の不撓を知らしめれば充分だ。

一八　自由、平等、友愛

古い時代に於て、人民の間に「自由、平等、友愛」を叫んだのは吾等である。此の言葉は夫れ以來、其の言葉の好餌の誘惑に各所から集まる無意識の鸚鵡に依つて屢々繰返されたが、社會の安寧、卽ち、嘗ては群衆の自制の爲に保證されてゐた個人の眞の自由と謂ふものが之に依つて破壞された。自ら學識を誇るゴイムも、此の言葉の蔭に隱れた矛盾と並列との意味を見拔くことが出來なかつた。自然の中には絕對に平等は存在せず、自由もあり得ないことが解らなかつた。自然其のも

のが腦髓、性格、智能の不平等を作り、自然の法則の中に夫を確立してゐることが解らなかつた。群衆は盲目であり、指導者として選擧される群衆中の成上り者は、政治に就ては群衆同樣に盲目である。政治の奧義を授けられたものは、假令愚か者であつても政治を行ふことが出來るが、奧義を授けられない者は、如何に非凡の才能を惠れて居つても政治の要領を得るものではない。此等の觀察は非猶太人の腦髓の能くするところではない。

一九　吾等は王統政治を破壞した

併し王統政治の原則は、父が其の子に、王家以外のものには解せられない政治の祕訣を授けると謂ふ原則の上に創成された。其故に、祕密は誰にも漏れることはない。軈ては、政治上の眞の原則たるべき此の王統繼承の思想は滅亡する。而して吾等の成功は更に大きくなる。

其にも拘らず、「此の自由、平等、友愛」と謂ふ言葉は、世界各所に於て、好むで吾等の旗幟を押立てる人民の一隊を、盲目の吾等の手代の斡旋に依り吾等の味方に引入れた。

二〇　特權階級の特權剝奪

併し、此の言葉は非猶太人の社會の繁榮を侵し、奴等の國家的基礎を覆すことに依て、平和、秩序、共力等を破つた美句である。諸君は、其故に、此の言葉が吾等の勝利の爲に役立ち、特權廢止

と謂ふ最も重要なる切札を吾等に與へたことを悟るであらう。而も此の特權は奴等の貴族政治の要素であり、吾等の攻擊に對して奴等の人民と國家を守る爲の唯一つの方法である。

二一　猶太金權獨裁

自然的で世襲的の貴族政治の破壞された廢墟の上に、吾等の博學なる階級の貴族政治と、金權に依る貴族政治を建設した。此の新しい貴族政治を、吾等の支配する富の上に、又吾等の天才の指導する學問の上に吾等は建設した。

二二　人間性と其の弱點との利用法

吾等が必要として居つた人民との鬪係に於て、吾等が常に人間性の最も感じ易い點に觸れることが出來ると謂ふ事實は、吾等の勝利を更に容易にする。卽ち打算、貪慾、飽くことを知らない物慾、之等人間の弱點の各々は、人間の獨創性を殺すことが出來、奴等の意見を奴等の活動を買收する者の自由に一任させたものである。

二三　「自由」の眞義を誤解するため、群衆は吾等に權力を渡す

自由と謂ふ抽象的思想に依つて主權者は一國の所有主たる人民を代表する管理者たるに過ぎず、使ひふるした手袋の如く自由に取換へることが出來ると謂ふことを、群衆に納得さした。人民の代

表者を自由に取替へることが出來ると謂ふ事實は代表者を吾等の思ふ儘にすることが出來るものとした。事實、彼等の就任は吾等の選擇に依ることとなつた。

プロトコール　第二

經濟戰に依る國際政府の準備

二四　經濟戰に依る吾等の權力の確立

吾等にとつて、戰爭が領土的の終局を遂げることが出來ないものにすることが必要である。斯くすれば、戰爭は經濟的基礎の上で清算される。經濟的基礎に於て、諸國家は吾等の力の優越を認めなければならない。斯くして、兩交戰國は、無數の眼を光らしてゐる吾等の國際的手代の自由にするところとなるであらう。此の手代の力は如何なる國境と雖も遮斷することが出來ない。其處で吾等の國際法は國內法を文字通り無效のものとして終ひ、國家の民法が人民間の關係を管理するように國家を支配するであらう。

二五　官吏の買收

奴隷的根性を有する爲に吾等が選出する行政官は、決して國家の行政に慣れた人間でない。それ故に彼等は容易に吾等の將棋の卒となつて、幼時から世界を支配することを敎育された吾等の專門家と學識ある天才的顧問との手中に思ふ儘となるであらう。諸君も知る如く、吾等の專門家は、吾等の政治的計畫に基いて支配する爲に、必要なる材料を歴史上の經驗と凡ての重大事件の研究とから得るのである。ゴイムは、公平なる歴史的觀察の實習に慣れるのでなく、單に、其の結論を豫測することとすら出來ない機械的なる理論に支配されて居る。それ故に、吾等は彼等に關はる必要がない。奴等が暫らくの間娯樂に身を委せようと、希望と新い慰安の上に生活しようと、また過去の幸福を追憶して生きようと、吾等は何等關はる必要がない。唯吾等が奴等に鼓吹した科學の法則—卽ち學說の重要なることを奴等をして盲信させるように仕向けなくてはならない。此の計畫の遂行の爲に、吾等は、吾等の新聞紙に依つて學說に對する奴等の盲目的信仰を高めるのである。奴等の知識階級は其の學識を誇るであらう。而して理論的證明をしたのみで、吾等の手代が集める凡ての學說を吾等が要求する方向に實際に行ふであらう。

二六　ダーウィン學說、マルクス學說、ニーチェ學說の勝利

吾等の斷言を根據なきものと信じてはならぬ。吾等に仕組まれたダーウィンの學說、マルクスの

學說、ニーチェの學說に於ける吾等の勝利を注視せよ。少くとも吾等にとつて之等學說が社會に導いた有害なる影響は、明々白々であるではないか。

二七　各國民に對する吾等の適應性

吾等が事件を處理するときに政治上の方針を誤らないやうにする爲に特に必要な事は、人民の近代的思想と性格と傾向とを思量することである。吾等の制度は、吾等の進路上にある人民の性情の差異に依つて、手加減される必要があるが、其の制度の勝利は現在と比較された過去の結果に基いて適用される時にのみ實現される。

二八　新　聞　紙

近代國家の手の中に一の創作的の偉力があつて、國民の間に思想の動きを起してゐる。この力は新聞紙だ。新聞紙の役目は群衆の要求を指示することであり、人民の不平を記錄することであり、而して群衆の不平を說明し、之を醱成することである。

言論の自由は新聞紙に權化した。併し、此の勢力は國家に利用される機會はなく、全く吾等の掌中に歸して了ふた。吾等自らは影を新聞紙の後に隱し、吾等の勢力を之に依つて波及させた。

二九　吾等の金力と膏血

新聞紙に依つて吾等は大いに黄金を吸收した。然り吾等は血と涙の瀧を流して黄金を集めたのである。……吾等は多數の同族を犧牲にしたが、吾等の中の犧牲者の一人は、神の前では奴等の數千人に値する。

プロトコール 第三

吾が世界征服の手段

三〇 象徴の蛇

今や余は、吾等の目的が成就されんとして居ることを諸君の前に斷言することが出來る。尚ほ僅か進めば、(吾等の民族を代表する)象徴の蛇の輪の兩端は合せられるのである。此の輪が縫合したときには、歐洲の國家の總ては、強い挺子の下に押へられた樣に動きが取れなくなるであらう。

三一 憲法制度の不安定

現在の憲法制度の均衡はやがて失はれるであらう。何故なら、吾等は此の制度を壓し曲げて、其の支柱が右に左に動揺して遂には磨り減つて終ふ樣にして置いたからである。ゴイムは此の支柱は

堅固に作られ、軈ては天秤の皿が安定するものと期待して居る。併し支配階級―即ち天秤の心棒―は馬鹿げたことをし、批判も責任もなく權力を濫用する人民の代表に依つて保護されて居る。而も彼等の權力は王宮中に漲る恐怖政治の上に置かれて居る。支配者の先見と人民の盲目力とは、吾等に依つて離間されて、何れも其の重要性を失つて終ふ。互に離間されては、彼等は杖を失つた盲人の樣に全く無力となるのである。

三二　黨爭と黨派の野心

野心家を驅つて權力を濫用させるために、吾等は總ての勢力を互に對立させ、其等の勢力を何等の制肘も受けずに獨立する樣にした。……此の目的のために、吾等は總ての企を奬勵し、權力を得ることを野心家の目標とした。吾等は混亂の生ずる國家をして政治の競技場にした。……今暫くの時が經てば、混亂と破產とが生ずるであらう。

三三　議會の饒舌と新聞攻擊とに依る權力の破壞

饒舌な辯論家は議會と政治的の會合とを一種の討論會と化して終つた。大膽な新聞記者や恥を知らない小册子作家は每日政治的人物を攻擊して居る。權力の濫用は最後には各種の制度の瓦解を招き、凡ては狂亂する人民の力に依つて覆されることになるであらう。

三四　人民の權利の架空性

奴隷制度や農奴制度の古い時代に於けるよりも尙は慘酷な負擔を人民は課せられて居る。奴隷制度や農奴制度からは逃れることが出來るが、生活難からは逃れる道はない。憲法の中に吾等が書入れた權利と謂ふ言葉は、群衆にとつては架空のもので、眞實でない。「人民の權利」と謂ふ如何にもありさうなものゝ凡ては、心の中にのみ存在して決して實現され得べきでない。

三五　權力と人民との對立

饒舌者に與へられる饒舌の權利、新聞記者に與へられた如何なる無稽をも書き得る權利などは、苦しい仕事に屈從し、其の運命のために壓し潰されやうとして居る無産勞働者にとつて一體何になるであらうか。吾等の代表者を選擧させる代償として吾等が與へる食卓の食ひ殘りを得る以外には無産者は何等の特權も憲法から得ることは出來ない。貧しい彼等にとつて共和の權利は如何にも皮肉ではないか。毎日の仕事に追はれ、彼等は其を享樂することは出來ない。其代りに、彼等は其親分又は仲間の同盟罷工に賴り、永久且つ確實なる所得の保證を捨てゝ終ふのである。

三六　貴族と成上り者

人民は、吾等の指導に依つて、彼等の保護者であり、彼等の自然の養ひの母であり、人民の繁榮

とは切つて切るべからざる關係を持つて居る貴族政治を破壞して終つた。貴族政治が破壞された上は群衆は自らを殘忍に壓迫する利用者と巧妙なる盜人との支配に歸するであらう。

三七　猶太的マッソン結社と其の分派

勞働者を此の壓迫から救はうと立つた救ひ主に對して、吾等は吾等の社會主義者や無政府主義者の隊に入ることを、遠廻しに勸めるのである。吾等は常に共產主義者を助けて居る。吾等の社會主義的マッソンに依つて考案された友愛の原則と人類一般の利益とに依つて吾等は彼等を助けて居る樣に見せかけるのである。勞働階級を助けることを常に考へて居る貴族は、勞働者が食物を得、より健康的に又より强くなる樣に氣遣つて居る。

三八　非猶太人の墮落

吾等の氣遣ひは、反對に、非猶太人を墮落させることにある。吾等の努力は勞働者を常に困窮と無力の狀態におく所にある。斯くて吾等は彼等を思ひの儘にすることが出來る。彼等は吾等の手代に取卷かれて吾等に對して反抗する力も勇氣もなくなるであらう。

三九　饑餓と金の力

嘗つては正統な權力が貴族政治に力を與へた。而して現在に於ては饑餓がより强固な力を資本に

與へるであらう。

壓迫と窮迫とに依つて醸成される羨望と嫌惡との感情を利用して、吾等は群衆を統治することが出來る。群衆の抱く之等の感情を巧に利用して、吾等は吾等を防害する者を間引きする。

四〇　無政府の廢墟の上に建設される「世界の王」

何時になつたら、吾等が用意する「世界の王」を卽位せしめ得る時が來るであらうか。吾等は前と同じ方法―卽ち下層民を利用すること―に依つて吾等の前途に横はる障碍を破壞して終ふ様に努力するのである。

四一　吾等のマッソン式學校に依る教育と生活の科學

彼等は久しい以前から吾等の科學的の助言なしには物を考えることが出來ない習慣になつて居る。其故に、吾等が吾等の時が來る時まで吾等が保持し様とするものの眞實の必要を彼等は解することが出來ない。吾等の時が來た時に、吾等は最も重要なる眞實―人間生活と社會狀態との研究を敎へなければならない。此の科學に依つて社會生活に分業が必要なことが解る。其故に人間を階級に分けることも必要となるのである。各人各々は性質を異にする仕事を與へられ、眞の平等は存在することが出來ず、團體全部の損失を招く行爲をする人間は、自らの名譽を危くする罪を犯す者よりも

特別な責任のあることを知らしめなければならない。

四二　祕密組織

社會機構に關する眞正なる科學的祕訣は奴等には公開しないが、此の科學に依つて人間の職業と仕事とには自ら差別がなくてはならず、此の差別に依つて教育と職業との齟齬のために人間が苦しむことがなくなるのを知ることが出來る。

此の科學の研究に依つて、群衆は其の自由意思で彼等自らが組成する權力と政府に屈從する。同時に吾等の考案する科學に指導されて、無智の群衆は活字に組まれた言葉と吾等に鼓吹される虛僞の幻想とを、盲目的に信ずる樣になる。而して彼等自身より高い階級に對して敵愾心を抱くのである。彼等は各種の階級の必要なことを解さないのである。

四三　世界の經濟的不安

商業と工業とを妨害する經濟的不安に依つて、此の嫌惡の情は更に大きくされる。各種の隱謀に依り、又全く吾等の手中にある金力のお蔭により、吾等は經濟的不安を醱成する。而して歐洲の各國内で街頭に勞働者の群を放つのである。彼等群衆は、幼い時から彼等の無智のために羨望して居る階級を慘殺し、其の財產を掠奪するであらう。

四四　猶太人は保護される

然しながら彼等は吾等に害をなさない。何故なら、吾等は攻擊の瞬間に於て、豫め夫れを知り、適當なる方法を講ずるのであるからである。

四五　吾等の力を以て自由主義を失くす

吾等は奴等を說き伏せ、自由主義に依つて理に從つた政治が持ち來される樣に見せかけるのである。賢明なる制裁に依つて、吾等の專制政治は總ての反逆と各制度內の自由思想とを鎭める樣にする。

四六　權力の崩壞と革命

下層民が、自由の名に於て種々なる權利を獲得したと思ふときに、彼等は自ら支配者になつたと自負して、更に權力を得ようと試みるのである。勿論彼等は、盲目者と同じく、幾多の障碍に衝突するであらう。其處で彼等は昔の制度に歸ることは出來ず、彼等の力を吾等の足下に投げ出すのである。佛蘭西革命を思ひ返して見よ。吾等は之を大革命と稱して居る。此の革命の準備の祕密は吾等の手でなされたことは普く知れて居る。

四七　シオンの血統の專制君主

現在より、吾等は各國家を瞞着のみで指導し、斯くして各國家は吾等が世界の爲に用意するシオンの血統を受けた專制君主に依つて、吾等の自由になるのである。

四八　猶太的マッソン結社の國際的勢力

現に國際的の力に依つて吾等は不撓となつた。何故ならば、一のゴイムの政府が吾等を攻擊する時には、他の政府が吾等を支持する樣になつたからである。奴等の卑劣さは、權力の前には飽く迄も跪まづき、弱き者には同情もなく、過失を許す寛大さも罪を許す仁義もなく、自由の矛盾を認めることもせず、而も殘忍なる專制の暴力のために與へられる迫害は我慢する程である。此の卑劣さは吾等の獨立には必要である。

現在の支配階級としての首相及大臣達からは、群衆は各種の權力の濫用を我慢して受けて居る。奴等の元首が、恣にする最も小さい權力の濫用の故にも、群衆は二十人からの元首を殺したのである。

四九　誤れる敎育

斯の如き狀態を如何にして說明するか。何故に群衆は總ての出來事の觀察に對して斯くも非論理的であるか。其れは歷政家が、其の手代の仲介に依つて群衆を說き伏せ、縱令彼等歷政家が權力を

濫用して國家に害毒を流す様な場合にも、彼等は或る高尙なる目的のため―卽ち人民の繁榮のためと、同族愛のためと、又國際的結合と平等とのために―する様に見せかけたからである。

斯くの如き一致は、吾等の力に依らなければ實際は出來ないのであるが、夫れを群集には告げない。又群衆は正義を罰し、不正を許し、思ふ儘の行動をする様になる。斯くの如き精神狀態に依つて、群衆は社會の均衡を破り、不安を惹起するのである。

五〇 自由

「自由」と謂ふ語に依つて、社會は各種の權力と衝突する様になつた。自然の力や、神の力とも衝突する様になつた。其故に吾等が權力を得た時には、人間の辭書から、人間を血腥い動物にする狂暴な力を象徵する「自由」と謂ふ語を消して終はなければならない。併し血に飽いて眠つて居る獸を見よ。彼等の心を摑へて、彼等を思ひの儘にするのは容易である。若し彼等に血を與へなければ彼等は眠ることなく、彼等同志で互に戰ふであらう。

プロトコール 第四

物質主義と宗教破壞

五一 共和國の發達

全ての共和國は、數段の行程を辿る。第一の行程は、初めて盲目になつた男が邊りにある物を散したりするに似てゐる。第二の行程は、全く無政府狀態を釀し出す煽動家の勢力の支配である。無政府狀態は次に專制政治に代はられる。此の專制は公けには正當なものでなく、其故に責任あるものでない。而も之は隱密に行はれ誰にも見られることはない。此の專制は或る祕密結社の監督にかゝり、祕密結社は其の手先を舞臺に送り、吾等は其の蔭の樂屋で仕事をするのである。吾等の仕事を隱す爲の手先が屢ゝ交代することは吾等の爲になる、何故なら長い間だ勤めた爲の報酬を彼等に支拂ふべき責任から逃れることが出來るからである。

五二 全世界に於けるマッソン結社の陰謀

抑も如何なる物が祕密の力を覆すことが出來るだらうか。吾等の力は全く祕密的である。マッソ

ン結社は吾等の目的を目立たない樣に全世界に對して隱す假面の役目をしてゐる。而も吾等の運動に此の力を用ゐてゐることや、吾等の本部が實際に何處にあるかは世間一般に知られてゐない。

五三　自由と神の信仰

自由は、若し其れが宗敎や神に對する恐れや人間的友愛の上に立つなら、人民の繁榮に害はなく國家の目論見の爲にも支障なく存在することが出來るのである。併し自由の思想は平等の其と引離して考へなければならない。平等の思想は從屬を必要とする自然の法則とは矛盾してゐる。

信仰に依れば群衆は小數區の保護を受け、敬虔なる牧師の指導に從つて靜かに又平和に生活し、神が此の世に與へた法に從ふのである。其故に吾等は全ての信仰を破壞し、吾等の心から神と靈の信仰を奪ひ、其の代りに數學的の計算と物質的欲望とを與へるのである。

五四　商業と工業—投機

吾等の政策から彼等の注意を逸らす爲に吾等は彼等の心を商業と工業とに向ける樣にすることが必要である。

斯くて各國民は自らの利益の爲に競爭し、此の世界的の陰謀—即ち共同の敵—に注意に向けることをしない。併し自由が奴等の社會を瓦解さする爲には、工業を投機的基礎の上に置かなくてはな

らない。斯くて工業に依つて土から得らるゝものは彼等の手に留らず、投機に依つて全て吾等の金庫に入るのである。

五五　金の豚

上流社會に對する闘爭と實業界に於ける絶えざる投機とに依り社會は墮落し、群衆は利己的となり、精氣を失つて終ふ。

斯くて群衆は政治や宗教の高尙なる問題に全く無關心となる。金に對する渇望のみが群衆を動かし、彼等は物質的快樂を與へる唯一の手段たる金を得やうと努力し、金を心から崇拜する。斯くして群衆は何等の目的もなく、又自ら富むことも出來ずに、單に上流社會に對する嫉妬から吾等の仲間となつて、吾等の競爭者—即ち奴等の特權階級に——對抗するのである。

プロトコール　第五

無政府に依る國際金權の確立

五六　猶太の專制政府

腐敗は、社會の到る處に浸潤し、富は巧妙なる誤魔化しと欺瞞的な手段とに依つて取得せられ、賄賂は社會を風靡する。道徳は進んで履行されることはなく、法律の制裁に依つてのみ僅かに維持され、國際主義は愛國心と宗教心とを殺して終つた。斯くの如き社會に、吾等は如何なる政治制を施くべきであらうか。

斯くの如き社會には、余が今から説明しやうとする專制以外に、如何なる政治制を施くことが出來るだらうか。

社會の力を吾等の手に收める爲に、吾等は中央集權の上に固く築かれた政治形態を創り出すのである。而して吾等は、新しい法律に從て、機械的に、吾等の人民の政治生活を指導する。而して、之等の法律は、奴等に與へられた特權と自由とを徐々に取上げるのである。斯くも立派なる專制に依つて如何なる時、如何なる所にも、吾等の支配は迎へられ、而して吾等に不滿を抱くゴイムは壓迫されるのである。

此の專制制度は近代の進歩とは調和しないと謂ふ者もあるが、余は事實の正に反對なるを斷言することが出來る。

五七　信仰破壞後の廢墟に建設される猶太的マッソンの權力

人民が、彼等の元首を神の意思の權化と信じて居た時には、人民は元首の專制に不平なしに從つた。併し、吾等が個人主義的の思想を吹込んでから、彼等は彼等の元首を單なる偶像と思ふ樣になつた。元首の身から、人民に感動を與へる光を失ひ、吾等が、人民の心の中から神に對する信仰を取上げた時に、王樣は溝の中に捨てられ、遂に吾等に拾はれて終つた。言辭と學說とに依り、又社會生活の指揮者に依り、又他の方法に依て、群衆と個人とを支配することは、吾等の行政的天才の領分に屬する。此の支配は分析と觀察とに依つて行はれ、他に類例のない吾等の理智の上に基礎を置いて居り、連帶制と政治活動とに於ては吾等には競爭者がない。只だ此の點に於てジェスイット教徒が吾等に匹敵する。併し、彼等は無智なる群衆の評判を失つて終つた。何故なら、吾等が吾等の祕密結社に依つて常に闇の中に隱れて居るに對して、彼等は公然と組織されて居るからである。終局は、群衆にとつては、世界がカトリックの元首に支配されるも、シオンの血統の王に支配されるも、同じである。併し、神の選民である吾等にとつては、此の問題に無頓著であつてはならぬ。

五八　非猶太人の反目と自己主義

ゴイムの世界的聯合は一時吾等を苦しめる。併し吾等は、彼等の間に存在する拔くことの出來ない強い軋轢に依つて守られて居る。吾等は、ゴイムが國家的利害と個人的利害とを混同するやうに

した。吾等は二十世紀前から宗教的嫌惡と民族的反感の情とを惹起さした。此の故に、如何なる國家も如何なる場所からも、援けを得ることが出來ない。吾等に反對する爲の聯合の不利なることを各國家は信じて居る。吾等は餘りにも强力である。吾等は、吾等の援けを藉らなければならぬ。如何なる國家も、吾等が祕かに參加することなくしては、極く些細な協約すら結ぶことが出來ないのである。

五九　神の選民―猶太人

「吾等に依て王が統治する。」吾等の豫言者は言つた、吾等は全世界を支配する爲に、神自身に依て選ばれたと。吾等の此の使命を果す爲に、神は吾等に天才を與へた。若し吾等の敵の中に、斯くの如き天才を見出す時には、彼等は吾等に對抗することが出來る。併し、新參者は吾等の老練者の敵ではない。吾等の攻擊の慘酷であることは、他に類を見ない。而も、奴等の間に天才の現はれるのは、既に遲れた。

六〇　金力、其れは政治力である

全ての政治の機關は吾等の掌中の原動力に依つて動いて居る。其の原動力とは金である。吾等の賢人に依つて發明された經濟學は、久しい以前から吾等が金權の上に君臨して居ることを示した。

六一　商業と工業との獨占

新たに新天地を得やうとする資本は、工業と商業とを獨占しなければならない。之は既に、世界中に見えざる手に依つて實現されやうとして居る。此の特權に依り、政治は企業家の手に移り、人民は其の下に置かれるやうになる。現在に於ては、群衆を戰はせるよりは、武裝解除を行ふ方が必要であり、群衆の感情を壓へるよりは、群衆の感情を、吾等の利益の爲に利用する方が必要である。他人の思想を斥けるよりは、之を吾等流に解釋することが必要である。

六二　吾等の言論の破壞性

吾等の政治の主要問題は、批判に依つて國民の精神を弱めることであり、吾等に對する反抗を生む思索の習慣を失くすることであり、群衆の精神力を單なる辯論に向けることである。

六三　猶太的マッソンの辯論會

如何なる時代に於ても、群衆は、一個人に至るまで、言葉を行動と思つて居る。彼等は、彼等の感情に訴へるもので滿足し、約束が社會生活の實際に於て實現されたか否かを觀察するの力を失つて居る。夫れ故に、吾等は特別なる機關を設け、其の會員の雄辯に依つて、吾等が進歩の爲に貢獻して居ることを示させるのである。

吾等は、各黨派と各傾向とに對しては全く無關心の態度を持しつゝ、吾等の雄辯家を凡ゆる方面に送る。此等の雄辯家は、大いに喋り、群衆をして倦ましめ、如何なる雄辯にも興味を失はしめるやうにする。

六四　輿論の破壞

輿論を味方にする爲には、各方面から、また長い間に亙つて各種の反對意見を創り出し、ゴイムをして迷宮に入らしめ、政治には何等の意見も存在しない方がましであると悟らしめるのである。之は、群集に知らしめてはならぬ問題である。群集を指導するもののみが之を知る。吾等の第一の祕訣は此處に在る。

統治に成功する爲の第二の重要なる祕訣は、群衆の惡癖、習慣、感情、共同生活の法則等を複雜なものとし、此の混沌から誰れも逃れることが出來ず、また相互に諒解し合ふことも困難なものとして終ふのである。此の戰法に依つて、各黨派内の不和を釀し、吾等の前に未だ跪かざる集團力を瓦解させる。

六五　個人性の破壞

また、此の戰法に依つて、各種の天才的創作力を弱め、吾等は群衆に不和の種を蒔いたが、此等

多數の群衆の上に吾等は勝利を博するであらう。吾等は奴等の教育機關を設け、天才を必要とする事件に對して群衆が無力となり、彼等が絶望的となるやうに仕向けるのである。制限のない自由制度の中に行使される力は無力である。何故なら、夫れは他人の自由の力に突當るからである。精神的の爭鬪、裏切り、失敗等は之から生ずる。

六六　猶太人の超政府

吾等は、群衆をして自由に惓き、吾等の國際力に道を譲るに至るやうにする。吾等の國際力の働きは、各國家の勢力を弱らすことなく總括し、超政府を作るに在る。現在の政府の代りに、吾等は超政府の支配と謂ふ案山子を作らう。此の超政府の手は、熊手の如く各方面に延び、組織は大規模となり、各國民は必ず其の下に從屬するやうになる。

プロトコール　第六

土地の取得と投機の普及

六七　猶太獨占に依る財産の集中

吾等は聽て偉大なる獨占を造らう。此の獨占は大きな富を擁し、奴等の大きな財産も吾等の獨占には全く從屬し、政治的異變の起る翌日には、彼等の全財産は、國家の債券と共に、吾等の獨占の中に吸ひ込まれる樣になる。

此處に出席の經濟學者諸君よ、吾等の此の機構の重大性を注目せよ。

吾等は吾等の最高政府が、其の膝下に進んで跪伏する者にとつて、保護者であり、恩人である樣に見せかけ、凡ゆる方法を講じて吾等の政府の重大性を增す樣にする。

六八　課稅に依る貴族の地上財産の沒收

奴等の貴族に就ては、其の政治的勢力の失はれた今日、問題にする必要がない。併し彼等は所有する土地から上るものを以て、吾等から獨立することが出來る。其れ故に彼等から土地を奪ふことは、吾等にとつて絕對に必要である。之に對する最良の方法は土地に負債を生ずる樣にする爲、不動産に對する稅率を增す樣にする。此の方法に依つて土地は全く從屬的のものとする。

奴等の貴族は代々僅かな物を以ては滿足することが出來ず、最早や破産をしようとして居る。

六九　商業—工業—投機取引の打擊

以上と同時に吾等は、商業と工業、別して投機を保護しなければならぬ。此の投機の役目は工業

を不安なものにするにある。若し投機がなければ、工業に依つて個人的な資本を集め、農業の改良を行ひ、農業銀行の好餌に依つて借りられた債務を決濟することが出來る。工業に依つて土地からの產物を、資本から利子を取る樣にし、世界中の黃金を投機に依つて吾等の金庫の中に收める樣にすることが必要である。斯して非猶太人は、無產者となり僅に生存する權利を得る爲に、吾等の前に跪かうとする。

七〇　贅澤の奬勵

奴等の工業を破壞する爲に、吾等は投機と奢侈―然り凡てを荒す奢侈―を擴めるのである。

七一　賃金の增加と物價の値上

吾等は賃銀を上げる。併し之は勞働者にとつて何等の利益とならない。何故なら、農業と牧畜と衰微の爲に、生活必需品の騰貴を來たし、又吾等は巧みに又徹底的に生產の根源を奪つてしまうのであるからである。

七二　飲酒に依る無政府

斯くする爲に、吾等は勞働者を放縱と酒精とに慣れしめ、土地の上から奴等の有識者を追ひ拂ふのである。

七三　猶太的經濟原則に依る勞働者の欺瞞

斯の如き事態が發生する前に、奴等が時代の眞相を知らぬ樣にする爲に、吾等は眞の目的を隱し、吾等の行動を勞働者の爲にすると見せかけ、今日吾等が敎へる經濟學を宣傳するのである。

プロトコール　第七

世界大戰の豫言

七四　軍備擴張の目的

軍備の擴張と警察官の增員とは吾等が發表する計畫の遂行上必要である。何れの國家にも吾等以外には、無產者の群と、吾等に忠勤を抽んでる僅かの百萬長者と、警察と兵士とのみが存在する樣にする必要がある。

七五　全世界に於ける騷擾、鬪爭、及敵愾心

歐洲に於て、他の大陸に於けると同じく、騷擾と不和と憎惡との種子を蒔く樣にしなければならぬ。其の利益は二重である。第一に夫れに依て凡ての國家は、秩序でも騷擾でも吾等が思ひの儘に

醸し出すことの出來る事實を知ることになり、吾等に尊敬を拂ふことになる。斯くて凡ての國家は吾等の壓迫を必要なものと考へることに慣れて來るであらう。第二に吾等の陰謀は吾等が一國の內閣に張り廻らした網を混亂させる。此の仕事は政治、經濟的契約、財政的取決め等に依つて爲されるのである。之等の目的を達成する爲に、會議と協議とに於て、吾等が大なる奸策を用ゐて居ることを仄かす必要がある。併し公の辭令に於ては全く反對の政策を執り、吾等が正直であり、妥協的である樣に見せかけるのである。斯の如くして吾等が提供する事件の皮相より見ることの出來なくなつた人民と政府とは、吾等を恩人であり、人類の濟度者であると考へる樣になる。

七六　地方的戰爭或は世界大戰の威嚇に依る懷柔

吾等の政策に反對する國に對しては、吾等は隣國の兵力を以て宣戰するのである。此の隣國も吾等に抗つて吾等の敵國と同盟するときには、吾等は世界戰爭に依つて之を應ずるのである。

七七　政治に於ける猶太的祕訣

政治界に於ける成功の確實な道は、計畫の祕密なるところにある。外交官の言は、彼等の行動と一致しない樣にする必要がある。

七八　新聞紙と輿論とに依る吾等の成功

吾等は吾等の政府をして、吾等が大膽に目論み、最早勝利に近づかうとして居る吾等の計畫に從つて行動する樣にする。斯くするに當つて、政府が輿論に從ふと見せかける必要がある。輿論は實際には新聞と謂ふ「偉大なる力」を以て吾等が祕密裡に作るものである。新聞は極く僅かな例外を除いて、凡て吾等の手中にある。

即ち歐洲內の奴等の政府を征服する方法を簡單に謂へば、吾等は一つの國家に暗殺とテロとに依つて吾等の力を示すものである。若し彼等が吾等に抗つて立つ樣な時には、吾等は米國、支那及び日本の大砲を以て之に應ずるものである。

プロトコール 第八

政治の變遷

七九 訴訟よりの隱れ場

吾等の敵が吾等に對して用ゐる道具は、吾等も掌握しなければならない。吾等が宣言を發する時に、其の宣言が餘りに大膽にして不正なる樣に見せない樣にする爲、吾等は、法律術語の微妙にし

て精練されたる點を以て辯明しなければならぬ。何んとなれば、此の宣言は非常に高尙な道德的格言の樣に見せ掛ける必要があるからである。

八〇　猶太政府の取卷き

吾等の政府は各種の文明の力で圍まれてゐるが、吾等は其の力の中で行動をしなければならない。吾等の政府は政論家、經驗のある法律顧問、行政家、外交家及び吾等の特別高級學校で特別な敎育を受けた人々に取卷かれるであらう。

八一　吾等の特別學校と其の目的

此等の人々は、社會制度の祕密を知り、政治的語句を解し、人間性の裏を知り、又樂器の弦を調べる方法を知つて居るのである。此の弦とは非猶太人の智能組織、彼等の傾向、彼等の缺點、彼等の德、彼等の階級と仲間の特質とを謂ふのである。吾等の政府の天才的援助者は、目的が何處にあるかを理解せずに政治を行ふに慣れた非猶太人の間より選ばるべきでないことは勿論だ。非猶太人の行政官は、目も通さずに書類に署名し、利益と野心とに誘はれて勤務して居る。

八二　經濟學者と金融家

吾等は吾等の政府を多數の經濟學者を以て充した。猶太人に經濟學を敎育することが最も重要な

のは、茲にあるのだ。吾等は、銀行家、工業家、資本家、特に百萬長者に取卷かれるであらう。何となれば、總ては數字の上で決せられるのだからである。

八三　吾等の仲間に占められる重要地位

吾等の政府の重要な地位の凡てを吾等猶太人の仲間で占めて危險がない狀態になる迄は、吾等は政治を、過去に汚點を持ち人民の間に惡評のある人物に委ねる。此等の人物は、若し吾等の命令に服さなければ刑罰か流刑かに會ふのであるから、最後迄吾等の利益を護るのである。

プロトコール　第九

宣傳の方法

八四　成人教育に於て採用さるべき吾等の原則

吾等の政策を實施するに當り、諸君が中にあつて働きかけ樣とする國民の性質に、特に諸君は注意する必要がある。各國民に同じ樣に吾等の政策を適用することは、教育の改革を吾等が行つた後でなければ成功することが出來ない。併し吾等の政策を注意深く適用して見れば、如何に頑固な性

質も十年を經ずして變つて終ひ、吾等は他の國民を吾等の思ひの儘にすることが出來るのである。

八五　支配權力の破壞

吾等の時代が來た時に、吾等は「自由、平等、博愛」と謂ふ吾等の標語を變へてしまふ。新しい標語は決して別なものではなく同一思想から出たものである。吾等は「自由の權利、平等の義務、博愛の理想……」と謂はう。吾等は牛を角を以て捕えるのである……實際吾等は吾等の政府以外の總ての政府を破壞した。勿論多少の國家は未だ殘つて居るのであるが。

八六　排猶運動

現在、若し何れかの國家が吾等に反對して立つならは、夫れは、吾等が望む處と吾等が命ずる處とに合致したものである。夫れに依つて吾等は若い同族を敎育するのである。此の事は玆で詳しく說明することを止めよう。何となれば吾等は吾等の會議に於て數回此の事に言及したからである。

八七　猶太政府の專制

實際に於て最早吾等の前に妨害はない。吾等の最高政府は、法の境を超えた存在として普通に「專制」と呼ばれて居るものだ。

私は現在自信を以て言ふことが出來る―吾等は現に立法者であり、法の判決者であり、死刑の宣

告者であり、恩赦の執行者であり、又吾等の軍隊に對しては馬上の隊長であるとー。政黨は、昨日迄は堅固であつたが、今日は吾等の掌中に屬して終つた。その政黨を以て吾等は確固たる政治を行ふことが出來る。吾等は、飽くことなき野心と、燃ゆる如き貪欲と、冷酷なる復讐心と忘れ得ぬ憎惡とを持つて居る。

八八　恐怖政治

總ての方面に侵入する恐怖政治は吾等から出るものである。

八九　猶太政府の使用人

吾等は、各種の意見の人物と各種の主義の人物とを自由にして居る。王政復古主義者、煽動家、社會主義者、コンミューン黨、其の他の夢想家等各種の人物を吾等の仕事の爲に用意した。此等人物の一人一人は、其の側にある權力を殘らず吸ひ取り、殘つた健全なるものを倒す爲に努力する。政府は此等人物の一揆に苦しめられる。政府は平和を欲する。平和の爲には凡てを犧牲にしても惜まない。併し政府が吾等の最高政府を公然と承認しない中は吾等は彼等に平和を與へない。

人民は、國際的團結に依て社會問題を解決する必要があると叫んで居る。併し人民が諸黨派に分れて居る爲に人民は吾等の思ひの儘になる。何となれば政爭の爲には金が必要であるが、總ての金

を所有するのは吾等であるからである。

九〇　權力者と人民との鬪爭

吾等は有識階級の精神力と群衆の盲目力とが團結することを恐れる。併し斯かる事が行はれない樣に吾等は出來るだけの手段を講じた。此等二つの勢力の間に吾等は互ひの恐怖と謂ふ障壁を設けて置いた。斯くの如くして群衆の盲目力は吾等の支持者となり、吾等のみが彼等を指導する。吾等は彼等を目的の爲に動かす方法を知つて居る。

九一　人民と吾等との關係

盲目者の手が吾等の指導を拒絕しない樣にする爲に、吾等は時々彼等と直接に接觸を保たなければならない。其れが出來ない時には、少くも最も忠實な吾等の仲間を通じてしなければならない。吾等が一つの勢力として認められた時には吾等は公共の場所に於て群衆と語り、吾等に有益な意味の政治問題を彼等に敎へるのである。

村の學校で敎へられて居ることを管理する方法はあるだらうか。一國の代表、一國の支配的人物が話すことは、國內全體に知れずに濟まない、何故なら之は人民の聲を以て擴められるからである。

九二　自由主義の作用

豫め非猶太人の各機關を破壞しない樣にする爲に、吾等は巧みに手を以て之に觸れ、彼等の機關の螺旋を握るのである。此の螺旋は、嚴格な而も正しい秩序にあつたが、吾等は之を放縱の中に置いた。吾等は司法權、選擧權、言論界、個人の自由の發展等に手を入れ、特に自由の存在に依存する教育に手を入れた。

九三　非猶太人と其の法律の破壞

吾等自身は誤りであると考へて居るが、吾等自身に依て奬勵される主義と學說とに依つて、吾等は非猶太人の青年を欺瞞し、彼等の頭を鈍にし、彼等の心を腐敗させるのである。

現在の法律を改正することなく、只反對の說明を以て法を曲げることに依つて、吾等は偉大なる效果を擧げることが出來た。

九四　法の解釋

複雜なる法の中に如何に處すべきであるかを知らない政府から全く法を匿して終つた所に、第一の效果は現はれた。此處から理法の裁判が生れたのである。

九五　地下道に依る都市の破壞

諸君は謂ふ―若し吾等の計畫が事前に暴露されたなら、人民は手に武器を持つて吾等に覇向ふだ

らうと。併し吾等は、斯くの如き場合の準備として、如何に勇敢なる人物も戰く一の術策を持つて居る。地下鐵は其の理由で各主要都市に建設された。吾等は之を國家の總ての組織と文書と共に爆破するのである。

プロトコール　第十

現存憲法の廢止

九六　猶太の外觀と政策

政府も人民も、事態の皮相より觀察することが出來ない。此の言葉は前にも言つたが、それを繰返すことから、今日の議論を進めよう。人民の代表者は娛樂を第一に考へてゐるのだから、彼等は物の眞相を看破することがない。此の事實を詳細に知ることは、絕對に必要であり、吾等が、權力分立、言論の自由、信仰の自由、集會の權利、法律上の平等、財産住居の不可侵、間接稅の徵收、法の反對作用等を論ずるときに、此の知識は役立つのである。以上の問題の凡てに關し、決して、群衆の前で、直接にまた公然と、觸るべきでない。夫れに觸れる必要のある場合には、一々之を列

擧することを避け、現存の法律的原則は正しいと斷言すべきである。此の寡言の重要性は、判然と決められない法則は、吾等が何時でも除去することが出來、若し吾等が一々之を列擧すれば、之を全く承認することになると言ふ所にある。

九七　偉大なる成功

群衆は、政治的天才に對しては、特別の憧れと大なる尊敬を持つてゐる。政治的天才が强制的政策を行つた場合、群衆は次の言葉を發する。「あれは卑怯だ、全く卑怯だ。併し、何と巧妙だらう……………巧い遣口だ。併し何んと巧く遣つたものだらう。何んと、厚かましい遣口だらう。」

吾等は、吾等が計畫した新しい基礎を造る爲に、各國民を引込む積りでゐる。其の故に、吾等は第一に此の大膽さと此の能力を取つて置かなければならない。此等の性質が吾等の實行者の中にあれば、凡ての障壁は破壞されるであらう。

九八　欺瞞と人民投票とに依る猶太の勝利

吾等が國家革命を遂行した時に吾等は次の如く言ふ。「凡ての事業は巧く行かなかつた。凡ての災害を諸君は受けた。吾等は諸君の凡ての苦痛、國籍、國境、貨幣の雜多を除かうとしてゐる。勿論、諸君は吾々を裁判することは自由である。併し、吾等が諸君に與へるものを調べずに、斯くす

ることは正しいことであるだらうか。」……斯く言つてやれば、彼等は狂喜して、異口同音に吾等を胴揚げするであらう。吾等の成功の道具として創製した普選に依つて、吾等は、人類に屬する最も下等なる人物にも、集會や組合を組織する習慣を附けたが、此の普選の最後の役割として、吾等を審理する前に承認させる爲に、人類の輿論を作るのである。

九九　普遍選擧

此の目的の爲に、全ての人類を普選に導く必要がある。階級と選擧條件とを無視して、吾等が有權の有識階段から得ることの出來ない絕對多數を得る必要がある。

一〇〇　個人主義に依る家庭の破壞

斯くの如く、全人類をして自負心を養はしめ、それに依つて、彼等の家族制度と其の教育上の重要性とを破壞する。吾等は群衆の心の中に獨創性が生ずることを許して置くことは出來ない。吾等の指導を受けてゐる群衆の中に、獨創性の强い人物が世に現はれることも、物を話すことも許さない。群衆は、彼等の從順と謹聽とに對して報酬を與へる吾等以外に耳を藉さない習慣になつてゐる。斯くの如く、吾等は群衆を一つの盲目力とし、如何なる場合にも、吾等が彼等の首領の地位に配した手代の指導なくしては、行動出來ないやうにする。群衆は報酬其の他の利益が新しい首領か

ら出ることを知る爲に、彼等は新しい制度に從ふであらう。

一〇一　思想と命令の統一

政府の計畫は、全て一人の頭腦から生れなければならない。何故なら、數人の頭腦が建設の事業を分擔したなら聯絡は失はれるからである。其の故に吾等のみが行動計畫を知るのはよいが、之を討論してはならない。討論に依れば、計畫の本質、各部分の聯絡、各要點の祕密等の意義と實行力とは失はれる。普選が討議し、改革するならば、夫れは計畫の深奥に觸れず、聯絡もない誤つた意見の寄せ集めに過ぎない物になるであらう。吾等の計畫は强固で、熟慮の上で出來たものであるべきだ。夫れ故に吾等は吾等の指導者の天才的事業を群衆や一部の團體の自由に委すべきでない。

此の計畫に依つても、當分の間近代的設備を轉覆するものでない。之に依つて、僅かに其の經濟の方面のみを改革し、吾等の計畫に依つて動く全ての發展を指導するのである。

一〇二　非猶太人國家機關の指導

各國には、名稱こそ異なれ、殆ど同じ物が存在してゐる。曰く代表、曰く大臣、曰く上院、曰く內閣、曰く立法府、曰く司法府。余は玆に、之等の機關相互の關係の仕掛を說明することは止めやう。諸君は之に就ては充分知つて居ることと思ふ。余は只、各機關が國家の重要なる機能と關係あ

ることを注意したい。吾等が重要と言ふものは、機關其の物でなく、機關の機能である。國家機關は、人間の各器官が人體の作用を分擔する樣に、政府の機能を分擔する。若し、吾等が國家機能の一部を害すれば、國家は人間の如く病氣に罹り、死んで終ふであらう。

吾等が國家機構の中に自由主義と言ふ毒を注ぎ込んだ時に、凡ての制度は變へられてしまつた。國家は致命的の病氣、即ち壞血病に罹つて、只斷末魔の苦悶の終りを待つのみである。

一〇三　自由思想の害毒

自由主義の發達に依つて、奴等の政府にとつて最も健全であるべき専制政體の代りに、立憲政體が生れた。諸君自ら知られる通り、憲法は、軋轢、不和、爭鬪、黨派の無役なる運動等の學校に過ぎない。一口に言へば、其れは國家より個人性と人格とを失はしめる道具に過ぎない。議場も新聞も、元首をして無能ならしめ、薄弱ならしめ、重要ならざるものにし、また不用にして終ふものである。其の爲に多くの國に於て元首は廢された。

一〇四　立憲國家、黨爭、群衆籠絡、猶太人の選ぶ大統領

共和制時代の到來は可能となり、吾等は國家の元首を、政治界の漫畫的人物、即ち大統領を以て代へた。大統領は、吾等の仲間や奴隷である群衆の中から選んだ。其處に吾等が奴等の間に敷設し

た地雷があるのだ。

近い將來に吾等は大統領の責任を規定しよう。

一〇五　大統領の責任

其處で、吾等は、吾等の計畫を大膽に遠慮なく行ふのである。此の計畫に對しては、吾等のダミ（トランプ遊びで、自ら札を切らず、仲間のする儘になつてゐる者―卽ち大統領譯者註）が責任を負ふのである。此の爲に、大統領になりたい人間が減らうと、大統領の過失の爲に、國家が全く瓦解するやうな混亂が來やうと、吾等の關したところでない。

一〇六　背德の大統領―議會―宣戰布告の權利

此の結果を得る爲に、吾等は、大統領としてパナマ事件のやうな過去を持つた人物を選ぶやうに工作する。舊惡暴露に對する恐怖、權力を得むとする野心、特權を保持せむとする希望、地位に依る役得と名譽等の爲に大統領は吾等の計畫の忠實なる實行者となる、議會は、大統領を選擧し、保護し、掩護する。併し、吾等は、法律案を提出する權利も、法律を改正する權利も議會に與へず、之等の權利を吾等の手中の玩具である大統領に與へた。

大統領の權力が、凡ての攻擊の目標となることは明かである。吾等は、大統領が自らを守る爲に

代議士を差置いて直接に人民の決議に訴へる權利を彼に與へる。卽ち、多數を吾等の盲目の奴隷にするの權利を與へる。其の外に、吾等は大統領に宣戰を布告する權利を附與する。此の權利を吾等は說明して、彼が責任ある代表たる新しい共和國の憲法を保護する爲に、彼は軍の司令官として軍を其の指揮下に置かなければならないと主張する。

一〇七　猶太祕密力の立法權

斯の如くして、國內政治の鍵は吾等の掌中にあり、吾等以外のものは、最早、立法を行ふことは出來ないことになる。

一〇八　民衆主義に依る新しい憲法

其の上、吾等が新しい共和制的憲法を制定した時に、政治の祕密を保持する必要があると言ふ理由で、吾等は議會から政府の方針に對する質問の權利を剝奪する。また、新憲法に依つて、代議士の數を最少限度に制限し、夫れに依て政治の熱情を減少させる。若し全く期待に反して、政治の熱情が少數者の間に尙ほ壯んであるならば、人民の多數の決議に訴へて代議士の全廢を斷行する。

上院の議長と副議長との任命は、大統領の權限である。吾等は、議會を常時開會せず、其の開會期を數箇月に制限するやうする。其の上、大統領は實行權の長官として議會の召集と解散を行ふこと

とを得るものとする。議會解散の場合に次回の召集を延期することを得る。併し、吾等の計畫の實行に於て、不法行爲の責任が大統領の上に懸かる結果にならぬ様、吾等は、彼を取卷く大臣其の他の官吏を煽動し、彼等の方針から行動する様に仕向けるのである。斯くて、大統領の代りに彼等が責任を負ふ。……吾等は、此の役割を個人に委せるより、特に上院、國會、内閣等に委せるやうに注告する。

現行の法律は各樣に解釋することが出來るが、大統領は之を吾等の欲する通り解釋する。吾等が其の必要を示せば、彼は法律を廢止する。彼は、國家最上の幸福の理由で、假法律を提議し、憲法の變更をすら提議する權利を持つのである。

一〇九 猶太寡頭政治の準備

以上の方法に依つて、國家の憲法の中に、吾等の權利に反して採用しなければならなかつた凡てのものを、徐々に破壞することが出來る。斯くして、一時的方法として凡ての憲法を少し宛廢止し凡ての政府を目立たぬ様に吾等の配下に一轄するの時を待つのである。

一一〇 猶太世界王國の宣言

群衆は、彼等の元首達の放縱と輕佻とには飽々して、彼等を追ひ出して、「吾等を團結させ、吾

等の不和の原因たる國境、宗教、國家の打算等を破壞する唯一人の世界の王を吾等に與へよ。然り吾等の元首達や代表を以ては得ることの出來ない平和と安泰とを與へることの出來る王を。―」と叫ぶ。さうした時に、吾等の獨裁の承認が憲法の廢止なしにも可能となるのである。

一一　マッソンに依る害毒の傳派

併し、斯くの如き希望を實現する爲には、凡ての國家の政府と人民との間に存在する關係を絕えず紛糾させる必要があることを、諸君も承知であらう。即ち、凡ての群衆をして、不和、戰爭、憎惡、空腹と缺乏との苦痛、病毒感染等に飽き、吾等の手代に、又吾等の完全なる獨裁に訴へる以外に方法なきに至らしめる。

若し、吾等が國民に再び鬪ふの餘裕を與へるならば、希望の實現される好機會は再び來ることは恐らくないであらう。

プロトコール　第十一

世界征服と吾等の寡頭政治

一一二　新憲法の基礎

參議院は政府の權力を强めるものであり、而して立法府の外觀を備へながら、實際には法律と元首の命令とを作成する委員會である。

吾等が準備する新しい憲法の計畫するところも其處にある。吾等は(1)立法府に對する大統領の提案を以て(2)一般命令、大統領令や內閣令、上院法令及下院決議の形式を以て、又た(3)吾等が時期到來と思惟するときには革命を以て、法律、憲法、及裁判所を創設するのである。

一一三　吾等の革命の詳細

今や吾等は此の目論見を大體作り上げたから、既に吾等が說明した意味で、國家を改造する方法を詳細に硏究することにしよう。言論の自由、集會の自由、信教の自由、代議の原則、其の他が盛んに叫ばれて居る。併し、之等は、新しい憲法が發布されたときには、人生の目錄から抹消される

か、根本的に改革されなくてはならない。吾等の全ての命令を同時に發布することを得るのは此の時に於てのみである。若し此の時期を外せば、凡ての目立つた變革は危險になるであらう。何故なれば、此の改革が嚴重に行はれるときには、峻嚴な壓制に對する恐怖から人民の絶望を引起すであらう。又反對に歡心を求める樣な政策を執るときは、人々は吾等が自ら誤れることを認めて居るものと思ひ、吾等の新しい必然なる權力の光は失はれるであらう。又或人は吾等が恐れを爲し讓歩を餘儀なくされたものと思ふであらう。此の讓歩は當然なことと思はれるので之に對しては何人も感謝するものはない。……

以上の印象は新憲法の威光を傷けて終ふ。新憲法發布の日から、卽ち群衆が革命の爲に氣を失つて居るときから、吾等の威力を示し、群衆の意向など頓着する必要のない樣にし、吾等は群衆の意向や輿論に關心を持たないばかりでなく、斷乎たる處置を以て、全ての發表、希望、意向の表明等を抑壓する樣にしたい。又た吾等に必要なるものは、全て之を取り、如何なる場合にも奴等と權力を分つことをすべきでない。……さうしたならば彼等は瞑目して事件を待つであらう。

一一四　羊の群として扱ふ非猶太人

非猶太人は羊の群であり、吾等は彼等にとつて狼である。諸君は狼が羊小屋に入つたときに、羊

がどうなるかは充分に御承知であらう。

奴等は凡てに眼を閉じて居る、何故なれば、平和の敵を平定し、全ての黨派を無力にした曉には取り上げた自由を再び與へることを吾等が約束したからである。

併し過去に再び戻るのを待つのが永いことは勿論である。……

一一五　祕密を隱匿するマッソン組合の外觀

吾等が非猶太人に關する政策を創り、彼等には其の眞相を明かにせず、之を鼓吹する理由は何處にあるか。若し、各地に四散した吾が民族が、直接に達することの出來ないものを、祕密の中に得ようと謂ふに外ならないのである。之は吾等の祕密のフラン・マッソン結社の結成に大いに役立つた。群衆は此の結社に就ては何等知ることなく、奴等の注意を祕密結社の眞相から外らす爲に非猶太人の中からも此の結社に加盟させたが、之等の人物すらマッソン的計畫に氣付くことがない。

神は吾等卽ち神の選民に浮浪の生活を與へた。吾が民族は此の弱點を持つて居るにも拘らず、吾等の力を以て現在世界を支配せむ許りになつて居る。

此の土臺の上に今や築くべき極く僅なものしか殘つて居ない。

プロトコール　第十二

新聞と其の利用法

一一六　「自由」の猶太式解釋

「自由」と謂ふ言葉は幾様にも說明することが出來るが、吾等は次の如く說明する。

自由とは、法律の許すことを爲すの權利である。此の言葉を斯く解釋するとき、全ての自由は吾等の思ひの儘となる。何となれば、法律は前述の吾等が計畫に從つて規定を布告し、又廢止するからである。

一一七　猶太權力下にある新聞紙

吾等は新聞紙を以て次の如く活動する。新聞紙は現に如何なる役目をするか。新聞紙は人民の激情を煽り、黨派の利己心を支持する。新聞紙は空虛であり、不正であり、誤魔化しであるが、多數は新聞紙が何の役割をするかを知らない。(新聞紙は吾等の馬で）吾等は之に鞍を置き、丈夫な手綱を着ける。新聞紙以外の出版物にも吾等は同様の手段を講ずる。若し吾等が小冊子や單行本の攻擊

の的になつて居たなら、新聞紙の攻撃から逃れることなぞ何の役に立つだらう。吾等は現在吾等が機關を行ふ爲に、高價になる出版物を、吾等の政府の有力なる財源とする。新聞紙には特別印紙税を課する。新聞社や印刷所の開設に對しては保證金を徴收する。斯くすれば吾等の政府は新聞紙の攻撃から逃れることが出來る。又吾等の政府を攻撃するものに對しては容赦なく罰金を課する。印紙税、保證金、及び罰金は國家にとつて大きな收入となる。

政黨の機關紙は打算を超越して居る。其れは事實だ。併し之等の新聞が繰返し吾等を攻撃すると き、吾等は此の新聞の發行を停止する。吾等の政府の正しき威光に觸れるものは必ず罰せらる。新聞發行停止の口實として、吾等は問題の機關紙が、何等の理由も、何等の動機もなく、人心を攪亂するものであると主張する。吾等を攻撃する新聞の中には、吾等自ら經營するものゝあるに注意せよ。此は吾等が特に變更を希望する點を攻撃するものである。

一一八　新聞、雜誌、單行本、其他の發表機關の調査

吾等の監督なくしては、何物も發布されることはない。此のことは、世界の情報を集める爲に各地に廻はした吾等の通信業者が全ての情報を受取る事實に依つて現在既に成功して居る。此等の通信業者は全く吾等の道具であり、吾等の命ずるもの以外には發表しない。

今や既に吾等は吾等の心を奪ひ、彼等が吾等から與へられた色眼鏡を以て世界の事件を見る程であり、又た既に國家の祕密と稱して吾等の近づくを妨ぐる門が如何なる國家にも存在しないのであるから、吾等が吾等の世界の王を以て世界を支配するやうになつた時には、如何なることになるであらうか。

出版業者、圖書館員、印刷業者等にならむとするものは、鑑札を必要とする。此の鑑札は違犯の場合には直に取戻されるのである。斯くの如くして、思索の方法は吾等の政府に依る敎育法と同一物となり、群衆をして進歩の恩惠に就て憧れることを最早許さないやうにする。

一一九　「進歩」の猶太的解釋

此の空想的憧れは馬鹿げた夢に導くものであることを、吾等の誰しもが知つて居る。此の夢から群衆と權力者との間の無政府的關係が生れるのである。何となれば、進歩より、否な寧ろ進歩の思想より、各種の解放の思想が出て、止まる所を知らないからである。……吾等が自由主義者と呼ぶ人々は、實行上でなければ少く共思想上の、無政府主義者である。彼等は全部自由の夢を追ひ、不平の爲に不平を言ひつゝ、無政府主義に陷るのである。

一二〇　再び新聞紙に就いて

再び新聞紙に就て述べやう。吾等は新聞紙に、他の總ての印刷物と同じく一枚毎の印税と、保證金を課し、三十枚以下の單行本には其の倍額を課する。此の種の單行本をパンフレットの一種とする。一つには此の區別に依て害毒の最大なる雜誌の數を減じ、又一つには作家をして長い作品のみを書かしめる樣にする。長い作品は高價なる爲讀まれることが少い。反對に吾等が大衆の爲に編輯するものは安價なるもので、到る處で爭つて讀まれる。課税は著作者の虚榮心を殺し、處罰に對する恐怖は文士達を吾等の支配下に置く。

吾等を攻撃する作品を書く者があつても、之を印刷する人を見出すことが出來ない。印刷を引受ける前に、出版業者も印刷人も當局より印刷の許可を得なければならない。斯くして吾等は吾等の爲に張り廻らす網を豫め知り、此の主題に就て吾等の說明を先に發表するのである。

文學的作品と新聞紙とは最も有放なる二つの教育的勢力であるから、吾等の政府は新聞の大部分を經營する。其の故に私營新聞の有害なる影響を無力のものとして、吾等は人心上に大きな勢力を張る。若し吾等が十の新聞を許可した時には、吾等自らは三十の新聞を創刊するのである。

群衆は疑ひを挿まない。吾等が發行する新聞は全て見たところ意見と傾向とを異にしてゐるので吾等の敵も疑を抱くことなく、之に引入られる。敵は艮に掛り戰ふことも出來なくなる。

官報に關する政策は吾等の第一の計畫中にある。官報は常に吾等の利益を守る。其故に官報の勢力は無に等しい。

第二には御用紙である。御用紙の役割は、無主義派と穩健派とを引入れるにある。

第三の計畫には吾等の反對を裝ふ新聞がある。少くとも一つの新聞は吾等の意見には全く反對する。吾等の反對派は此の僞の反對紙を自らの味方と誤認して、之に彼等の計畫を洩らす。

吾等は憲法の存在する間、各傾向の新聞紙を經營する。貴族主義のもの、共和主義のもの、革命主義のもの、無政府主義のもの等、各傾向の新聞紙を經營する。

此等の新聞は印度の神ヴィシュヌーの如く、百本の手を持つて居る。此等の手の各々は社會の變化を促進させ輿論を吾等の計畫に好都合のやうに指導する。動搖する人心は判斷力を失ひ、容易に煽動に乘る。彼等自黨の機關紙の主張を繰返して居ると自ら信ずる者は、吾等の說か吾等を喜ばせるの說かを繰返して居るに過ぎない。彼等は自黨の機關紙に從つて居ると信じて居るが、事實は吾等が彼等の爲に立てた旗幟の下に集まつて居るのである。

吾等の新聞記者の團體を、吾等流に指導する爲に、以上の計畫を注意深く組立てなければならない。吾等は新聞中央事務所の名義で、作家聯盟を作り、其の中で、吾等の手代が氣付かれぬ樣に吾

等の標語と暗號とを宣傳するのである。吾等の機關紙は吾等の計畫に就ては皮相的な批判と攻撃とを開始する。此の論爭は勿論仕組まれたもので、之に依つて吾等は最初は公に發表することの出來なかつたものを發表することが出來る。

吾等に對する攻撃を指導することに依つて、吾等は群衆に言論の自由を信じさせることが出來る。又た之に依つて吾等を攻撃する反對黨機關が、吾等の活動を攻撃する眞面目な理由を見出すことも出來ず、唯空論をして居ると謂ふことを、吾等の手代に立論させるやうにすることが出來る。

此の方法に依つて吾等は輿論の的になることから逃れ、群衆の間に勢力を張り、吾等の政府に對する信用を博する。此の方法に依つて吾等は思ひの儘に政治に對する人民の好奇心を掻き立て、又は鎭めるのである。吾等は時には眞相を、時には誤報を印刷し、事實を是認したり、否定したり、常に地上に足を下す前に豫め觸つて見る樣に人心に與へる影響を考慮するのである。

吾等は吾等の敵を完全に征服する。何となれば上述の吾等の方針に依つて彼等が其の說を主張する爲の機關を彼等が思ふやうに出來ないからである。吾等は彼等の說を蔽く必要もないのである。

吾等は、必要に應じては、吾等の僞の反對新聞に掲載した風見記事を御用新聞を以て手酷く攻撃する。

一二一　マッソヌリーと新聞紙との關係

少くとも佛蘭西の新聞界には既にマッソンの暗號に依る團結がある。凡ての新聞は職業上の祕密を以て結び、古式の宣誓に依り命令を受けざる限り、會員は情報の祕密を洩らさない。如何なる記者も吾等の祕密を洩さうとはしない。何故なら、吾等は過去に汚點を持たない記者は一人も吾等の組合に入れず、違反の場合には直に彼等の過去の汚點は曝露されるからである。過去の汚點が其の所有者の祕密である間は、記者の威光は多數の心を引付け、群衆は熱心に彼の後に從ふのである。

一二二　地方の必要

吾等の計畫は特に地方に迄及ぼされる。吾等は、都會に於けると反對的な希望と心を地方に煽ふり、都會には反對に地方の傾向と意見を吹込むのである。出所は常に同じく、吾等から出るのである。吾等が完全なる權力を握るに至る迄、輿論卽ち吾等の手代が工作する多數の意見を、都會が包容するやうにしなければならない。絶好のチャンスに當り、又は危機に當り、都會が既決の事項を非難しないやうにする。何となれば此の事項は既に地方の多數に承認されたからである。

一二三　新制度の確實性

吾等の治世に向ふ過渡的新制度の時代にあつて、新聞紙が社會の腐敗を曝露することを許しては

吾等の治世に向ふ過渡的新制度の時代にあつて、新聞紙が社會の腐敗を曝露することを許しては
ならない。吾等の新制度が總ての人々の利益となり、犯罪すら影を消したやうに、群衆を信じさせる必要がある。……犯罪が曝露した場合にも、犯罪の犧牲者と偶然な目撃者と以外には之を知らしめないやうにする必要がある。

プロトコール　第十三

輿論攪亂の方法

一二四　日常のパンの奴隷

日々のパンの缺乏の爲めに非猶太人は沈默し、吾等の從順なる下僕となる。吾等の新聞の爲に群衆より引拔かれた手先は、公式文書に明らさまに發表して不都合な事を論じ、吾等は彼等を利用し彼等の議論に依つて煽動された騷ぎを利用して、吾等に必要なる計畫を行ひ、之を既決事項として群衆に提示する。既に決議されたものを否定する大膽さを有する者は居ない。まして、既決事項が進歩的である理由で提示された時に於てを哉である。新聞紙は、特に新しい問題に對する興味を喚る。（吾等が、群衆をして新奇を好む樣に仕向けたことは、勿論だ。）

自ら論じて居る問題に對してすら何等の理解を持たない「運命の奴」たる人間は、爭つて新しい問題を論じようとする。政治の問題は數世紀前から之を創め之を指導して來たもの以外には、容易に近寄れるものでない。

一二五　政治問題

此等凡てに依つて群衆の輿論を調査した上で、吾等は、吾等の計畫の完成を容易にするのみである。其の事は、諸君も氣付かれるであらう。又、諸君は吾等の行爲でなく、時々の吾等の發表に、吾等が贊成を求めて居ることに氣付かれるであらう。吾等は、全て吾等の方法を行ふに當り、群衆の幸福の確實性への希望を手段とするのである。

一二六　商工業の問題

政治に餘りに熱心なる人々の氣を外らす爲に、吾等は新しい問題として工業問題を提出する。彼等は熱心に此の問題に沒頭する。群衆は、新しい職業を得ると云ふ條件で、何等することもなく、所謂政治運動には飽き、靜かにして居ることに滿足する。（所謂政治運動に於て、吾等は群衆が仲介を以て政府と爭ふ樣に慣らしたのである。）吾等は群衆に政治の同じ方面を示すのである。

一二七　遊戯と遊び場

一二七　遊戯と遊び場

群衆を考へることのない様にする爲に、遊戯と娯樂とに依り、情慾と遊廓とに依り、彼等の頭を思索から外らすのである。………其の上で、吾等は新聞紙に依つて、藝術、各種スポーツの競技會を催し、彼等の考へを、吾等が彼等と鬪はなければならない分野から、除けて終ふのである。人々は自ら考へることから段々不慣となつて、吾等の考へる通りに話す様になる。何となれば、（吾等の仲間と見えない吾等の手先に依つて）彼等に新しい思想を吹き込むのは、吾等丈けである。

一二八　非猶太人には誤れる學説を猶太人には唯一つの眞理を

吾等の治世が承認される時には、自由主義的夢想家の役割は全然終る。其れ迄、彼等は吾等の爲に役立つ。其れ故に、吾等は、奇怪な、新しい、進歩的と稱される説を群衆の間に吹込むのである。吾等は愚かなる群衆を、進歩と云ふ言葉に依つて完全に誘惑する事が出來た。又、彼等の中には此の言葉の中に隱された意味、則ち眞理は只一つで、進化するものでないことを見透す者は居ない。所謂進歩とは、誤つた思想で眞理を曇らせるものである。眞理は、吾等、神の選民以外には、知られない。

一二九　世界を猶太人の掌中に藏めるための大問題

吾等の時代が來たときには、人類を吾等の聖なる時代に迄引き擢つて來た大問題を吾等の代辯者

が理由づけるのである。此等の問題が吾等の政策に依つて謀れたことは、長い間氣付かれずに居るが、其の時になつて、誰か疑ひを挾むだらうか？

プロトコール　第十四

世界を一神教とするために

一三〇　モーゼ以外の宗教の廢止

吾等の時代が到來した曉には、吾等は、吾等の一神教以外には如何なる宗教の存在も許さない。此の唯一の神に依つて、神の選民たる吾等の運命は、神の運命と結び合つた。又、此の神に依つて吾等の運命は、全世界の運命と合致したのである。其れ故に、吾等は凡ての宗教を破壞すべきである。若し、之れが爲に現在の如き無信教時代が發生したとしても、此の過渡的段階は、吾等の思想を妨げない許りでなく、來るべき時代の人民が、モーゼの宗教に關する豫言に耳を傾けるための模範となるであらう。モーゼの宗教は、禁欲的な、良く練られた教義のもので、世界中の人民を完全に征服するであらう。吾等は之に依り、此の教義の凡ての教育的效果を含む不可思議なる眞理を發

表しよう。

一三一　世界は猶太人の奴隷

其の上で、吾等は如何なる場合にも、吾等の聖なる權力と過去の其れとを比較する記事を發表しようと心掛ける。數世紀に亙る騷擾の後に、漸く平和が到來するであらうが、此の平和の狀態に依つて、吾等の統治の慈悲深い點が目立つて來る。吾等は非猶太人の政府の過失をはつきりと指摘する。奴等の政府に對する群衆の憎惡心を唆り、群衆をして、自由の權利よりも、奴隷的の安逸を選ぶ樣に仕向ける。自由の權利は、長い間群衆を苦しめ、彼等から生活の道を奪ひ、此の權利に依つて、自ら爲す所を理解しない山師の連中が群衆を踏躙つた。……吾等が政治的基礎を覆さうとする時には、奴等を不必要な政變に導くのであるが、群衆は、政變には懲りて居るので、再び政變の起ることを恐れて、吾等に賴るのである。奴等の政府は、全く考察力を缺き、人生の眞の幸福を解せず、徒らに社會的幸福に對する幻想を追ひ、群衆を苦しめて來た。又、政府は其の計畫が人生の一般的關係を改良せずして改惡するのみであつたことに氣付かずに來た。奴等の政府の此等の過失は特に大ビラに發表するのである。……

一三二　猶太の宗敎の神祕

吾等の學者は、基督教に關しても批判を加へる。併し、吾等の宗教を眞正に批判する者はない。何となれば、吾等の宗教の祕密を裏切る者は、吾等同族の中には一人も居ないからである。其れ故に吾等の宗教を根本から理解するものはないのである。

一三三　不道德なる作品と未來の文學

近代國家の中に、吾等は、不道德な劣惡文學を創造した。吾等の時代が始まつた後も、暫らくの間は、吾等は之を奬勵しよう。さうして、此等の恥ずべき文學と、吾等の演說、吾等の計畫等を比較させよう。

奴等を指導する法を敎育された吾等の賢者は、演說の草案、計畫、所感、其の他の記事を書く。吾等は、之に依つて、人心の上に勢力を張り、群衆に押付けようとする吾等の思想と知識とに、群衆を導くのである。

プロトコール 第十五

マッソヌリーと敵粉碎の方法

一三四　同時に起る世界革命

到る處、同一の日に起るやう準備された國家革命の援けに依つて、現存國家の無力が決定的に認められた後に於て、遂に吾等の時代が創まる。(併し、之には未だ相當の時期、恐らくは一世紀を要するであらう) 此の時には、吾等は吾等に對する陰謀の起らぬやうに用心しなければならない。

一三五　祕密結社の禁止

吾等は、此の計畫の爲に、吾等の王の卽位に對して武器を以て刄向ふ凡ての人民に死刑の宣告を下す。新しく設けられる如何なる祕密結社に對しても、同樣に死刑の宣告を下す。現在存在する祕密結社は吾等に承認され、吾等の役に立ち、將來も役に立つであらうが、吾等の時代が來れば、吾等は之を廢止し、結社員は歐洲の避地に流刑に處するのである。

一三六　非猶太人マッソン員の運命

尙ほ內情に通じてゐる奴等の結社員に對しても、同樣の嚴罰を加へるのである。何かの理由で吾等が敬遠する人物には、永久の流刑を以て威嚇する。

吾等は新しく法律を發布する。之に依つて、凡ての祕密結社の會員を、吾等の政治の中心たる歐洲から遠ざけるやうにするのである。

吾等の政府の判決は確定的なもので、上訴を許さない。

一三七　テロに依る猶太人の權力

吾等は、奴等の社會に不和と騷擾との深い根を張つたが、彼等が秩序を保たうとする爲には、吾等の不撓な權力を認める以外には方法はない。未來の幸福を確保する爲に犧牲者を出すことに對しては、特別の考慮を拂ふ必要がない。政府は、自身の存在の理由が其の特權の擁護にあるのでなくてすら、其の義務の行使にあることを悟る必要がある。斯かる政府は、義務として、虐殺を行ふことに依つてすら、幸福を確保しようとする。一つの政府が基礎を固めるためには、其の權力の威光を强めなければならない。此の威光は、不撓なる力に依つてのみ得ることが出來る。吾等の力が神祕的不可思議……卽ち吾等が「神の選民」であると謂ふ印象を與へなければならぬのは、其の故だ。近代に至る迄の露西亞の專制政治は、それに似たものであつた。卽ちそれは法王廳と共に、吾等の敵であ

つた。諸君は、伊太利に於ける實例を記憶してゐるであらう。伊太利に於て流血の慘事があつた。血を撒いたシラの頭の一本の髪にすら、人々は觸れなかつた。シラは、彼の力を以て、人民の前に神として現はれた。彼が華々しく伊太利に歸つた時には、人民は彼を英雄と崇め、不可侵なものとした。人民が其の勇氣と精神力との故に崇める人に對しては、彼等は一指をだに觸れることが出來ない。

一三八　マッソン員の增員

吾等の時代が到來するまでは、反對に、吾等は世界中到る處にマッソンの組合を創り、其の數を殖やすのである。吾等の手先と、手先たり得る人物とを、吾等は此處に引き寄せるのである。マッソンの組合は、吾等の主たる事務所となり、吾等が活動する爲の有力なる手段となるものである。

一三九　シオン賢人會のマッソン結社統制

吾等は、凡ての組合を、吾等のみが知る吾等の賢人會本部の監督の下に置く。各組合は、其の代表を選ぶが、代表の蔭には必ず吾等の賢人會本部が隱れて、組合の標語や計畫を發表させるのである。吾等は、マッソンの組合の中に、凡ての革命的、自由的要素の中心を置く。組合員は、各階級のものから成立つてゐる。組合の最も祕密なる政策も吾等に通知され、其の實行の時から吾等に指

導されるのである。

一四〇　間諜と猶太―マッソン

多數の組合員中には、國內警察員と國際警察員とが屬してゐる、何んとなれば、（アゼフ事件に於けるが如く）彼等の仕事は吾等になくてはならぬものであるからである。警官は、强情な人間に對して手段を講ずる許りでなく、吾等の行動を隱し、不平の口實を創作するのである。

一四一　祕密結社を動かす猶太―マッソン

祕密結社に加入する者は、大概野心家であるか、山師であるか、さもなくば輕薄な人間である。吾等の計畫を完成するために、吾等が彼等と協議することに何等困難はない。叛亂が起ることがあれば、其れは吾等が大きな團結を破壞するために社會を混亂に導く必要があつたことを表明する。叛亂の陰謀が存在するならば、其の陰謀の首領は吾等に最も忠實な奴隷以外の如何なる人間でもない。マッソンの事件を指導するものは吾等で、他の如何なる人間でもない。何んとなれば、吾等は凡ての行動の最終の目的を知り行動を如何に指導すべきかを知つてゐるから…。之に反して、奴等は何事も知らない。彼等が其の計畫を實行する時は、毎も單なる一時的自尊心の成功で彼等は滿足する。彼等の計畫も、彼等自身の頭から出たものでなく、吾等に暗示された

ものであることすら、彼等は氣付かない。

「四二　非猶太人を利用しての成功

奴等は好奇心から組合に加入する。或者は、組合の援けに依つて社會的利益の分前に與からうと謂ふ希望で加入する。又た或者は、何等根據のない、實現不能の夢を公衆の前で發表出來ると謂ふ理由で加入する。彼等は、成功と拍手とを心から希望してゐる。吾等は彼等に成功と拍手とを與へることを惜しんではならない。吾等は彼等に成功を與へる。其の上で彼等の滿足を利用して、吾等の暗示を、何等の警戒なしに、採用させるやうすることが出來る。彼等自らは、自分の思想を考へ出し、他人の思想を取入れるのでないと信じてゐる。奴等に一寸した不成功を與へても、彼等を沮喪させることが出來る。斯くの如くして、彼等は、新しく成功を得るために、奴隷的從順に導かれるのである。

吾等の同族が其の計畫の達成をのみ考へて、其の個人的成功を輕視してゐるに反して、奴等は、其の個人的成功を得るために、凡ての計畫をすら犧牲にしようとしてゐる。奴等の此の心理狀態は吾等の仕事を進める上に非常に役立つてゐる。見たところ虎のやうな彼等は、心の中は羊である。のみならず、彼等の頭腦は全く空虛である。吾等は彼等に、彼等の突飛な嗜好物……卽ち、共產主

義……の中に人類の個人性を混合しようとする夢を與へた。

一四三　共産主義

この共産主義は、世界の創生以來、人類の各々の差異を作り、個人性を生み出す自然の最も大切な原則を破つてゐる。此の明らかな事實を彼等は悟らない。又決して悟ることがないであらう。吾等が奴等を盲目的に服從させることが出來るのは、奴等の腦力が吾等の其れに較べて著しく遲れてゐるからでないだらうか。此の事實は、吾等の成功に對する恩惠的なものである。吾等の祖先の賢人は、「手段の前に躊躇してはならぬ」とか「目的の達成のために犧牲を惜しんではならぬ」と謂つた。

一四四　テロと强制執行との爲には犧牲を無視

吾等の祖先が其の計畫の達成のために、如何に達觀的であつたかを知ることが出來やう。吾等は奴等の犧牲者の數は數へなかつた。勿論吾等自らも多數の犧牲者を捧げたが、其れに依つて、吾等は此の地上に夢にも想像出來なかつた吾等の支配權を確立した。數に於ては極く少數な吾等同族の犧牲者は、吾等の民族全體を破壞から救つた。

一四五　マッソン員の犧牲—非猶太人に自由主義を—

死は各人の避けることの出來ない最後である。新しい秩序の產物たる吾等の同族と吾等の臣民との死を見るよりは、吾等の仕事に邪魔をする人物に對して、死を早める方がよい。吾等は、フラン・マッソン結社員を殺す時、其の仲間も疑を差挾まないやう、又犧牲者自身すら其の死因が解らないやうにしなければならない。必要な時には、結社員は殺される。而も、自然の死に依つて死ぬやうに見せかける。眞相を知つた仲間があつても、一人として異議を申立てるものはない。斯くして、フラン・マッソンの間から、吾等に對する叛亂の野心のあるものを一掃する。吾等は、奴等の間には自由主義を說く、併し、吾等の臣民と吾等の手代に對しては、絕對服從を强ひるのである。

一四六　非猶太人の法律と權力は重要性を失ふ

吾等は吾等の勢力を以て、奴等の政府の法律の執行を最小限度に制限する。奴等の法律の威嚴は吾等が鼓吹した自由主義の解釋に依て覆へされた。吾等が欲し又吾等が奴等に提示する意義の政治と道德との最高の原則は裁判所に依て決議される。吾等は此の目的を達する爲に吾等とは別個のものと一般に思はれて居る方法、即ち輿論、新聞紙、其の他を使用する。上院議員、高級官吏等に至るまで吾等の忠告を採用する樣になる。奴等の獸的な能力の低級は物を分析し觀察を下すことが出來ない。又問題が如何なる方向に進むかを豫知することが出來ない。

一四七　神の選民

之に依つて「神の選民」の優越性を、奴等の本能的獸性と判然比較することが出來るのである。奴等は見ることが出來る。併し豫見することが出來ず、又（物質的なもの以外に）發明することが出來ない。其故に自然自らが吾等に世界支配の運命を與へたと謂ふことが出來る。

一四八　猶太人の法律は簡明

吾等が統治し、吾等の政治の利益を公然と發表出來る時代が來た時に、吾等は凡ての立法を改良する。吾等の法律は簡單で、明瞭で、確實であり、說明的附則等を必要としない。此の法律は萬人が諒解し得る樣に書かれる。

一四九　絕對服從

此の法律の重要な特質は權力に對する絕對服從に在る。

一五〇　權力濫用に對する極刑

其故に、各人の責任觀念に依つて、權力代表者の權威の前では、如何なる權力の濫用もなくなつて終ふ。下級官吏の越權的行爲は之を峻烈に罰し、權力を試みに行使して見ようと考へるものなど失くして終ふ。吾等は政府機關の運用を趣す政治的行動を嚴重に監督する。何となれば行政の放縱

は凡ての放縦を誘致するからである。如何なる違法も如何なる濫用も見せしめの爲め必ず罰せられる。行政官の腐敗、共謀等は罰せられる。一度罰せらるれば、之等は影を消して終ふ。吾等の主權の威力を保つ爲には有效なる刑罰を必要とする。僅かな違法行爲も嚴罰に處する。何となれば如何なる違法も主權の最高なる威力にとつて有害であるからである。過失の故に不相應に嚴罰された者は、主權、政策及び法律を守る爲め政治的戰場に於て戰死した勇士である。個人的利益を公生活に持ち込む事は社會を指導する者の場合ですら許すことは出來ない。吾等の司法官は罪人に對する愚なる同情を表明して滿足するときには正義の法を破るものであることを知つて居る。正義は、刑罰に依り人間を敎育する爲に設けられ、司法官の同情を表明する爲に設けられなかつた。斯くの如き性格を個人生活に表現する事は何等問題とすべきでないが、人類敎育の基礎たる公生活に於ては許されない。

一五一　司法官の停年

吾等の司法官は五十五歳を越えては勤めることが出來ない、何となれば第一に老人は先入主義を頑強に固持し、新しい命令には容易に服從しないから、又第二に此の停年制に依り吾等が思ふ樣に陣容を變へることが出來るからである。此の制度が吾等にとつて好都合であるのは、自らの地位を

護らうとする者は、奴等の利益に盲目的に從はなければならぬところにある。

一五二 司法官及其他の高等官に自由主義禁止

一般に吾等の政府の司法官は、其の役目が罰することであり、法を適用することであることを理解し、而して現在奴等の考へて居る如く國家の廢墟の上に自由主義を實現することではないことを理解して居る人物から採用される。尙ほ役員の更迭は奴等仲間の團結を覆す爲に役立ち、役員は彼等の運命が密接に關係する國家の利益の爲に働くのである。新しい時代の司法官は人民の關係の秩序を害する權力の濫用は許すべきでないことを教育される。

現在の奴等の司法官は其の義務に對する正しき認識を有せず、凡ての犯罪に對し寬大である。之は現在の元首が司法官を任命するに當り、責任の觀念と職務に對する認識とを彼等に吹き込むのを怠つて居るからである。恰も其の子供を食物の蒐集に出してやる野獸の如く、吾等は其の家來に收入の多い地位を與へ、奴等に其等の地位が何故に存在するかを說明しない。其故に政府は自らの力と其の行政行爲とに依つて破壞されるであらう。此の結果は來るべき吾等の制度の好參考となる。

吾等は吾等の政府の凡ての地位から自由主義を廢除して終ふ。吾等の人民の教育は吾等の政府に全く從屬して居る。

吾等自ら司法的教育を授けた者のみを之等の教育に採用しよう。

官吏の退職は吾等の金庫に大きな負擔を負はすのではないかと謂ふ疑問が起るが、吾等は之に次の如く答へる。

一五三　世界の金

第一に、官界に地位を失つた人物は私營事業に地位を求める樣にする。第二に、世界の凡ての金貨は吾等の掌中に集つた爲に、吾等が多額の費用を惜しむ必要は毫もない。

吾等の獨裁は凡てに及ぶ。吾等が命ずるときに吾等の意志が反對を受けず、尊敬され、實行されるのは此の故である。

一五四　猶太ーマッソン權力

如何なる不平、不滿も吾等は考慮に入れることは要らない。懲戒的刑罰に依つて凡ての犯行は壓へられて終ふ。

一五五　上訴權の禁止

吾等は吾等の法廷の判決を無效にする上訴の制度は廢止して終ふ。何となれば人民に吾等の判決が不正であると謂ふ思想を抱かしめてはならぬからである。若し判決に誤りのあつた場合には吾等

自ら判決を破棄し、義務と責任とを理解しなかつた司法官の刑罰を行つて、同じ樣な場合が再び繰返されない樣にする。もう一度繰返して言ふが、人民は良い政治と共に良い官吏を要求する權利があるから、政治の根本を理解する吾等は人民が全く吾等に滿足する樣に注意すればよいのだ。

一五六　吾等の世界王の家長的外觀

吾等の政府は其の主權者に依つて人民の族長たり、家長たり、保護者たるの外觀を備へる。主權者の人格は、群衆の眼からは、群衆の要求、人民相互、人民と統治者との關係等を常に考慮する父と見えるであらう。

一五七　猶太の世界王の神化

若し群衆が平和と繁榮との世界を求むるならば、彼等は吾等の王の保護なしには何事も出來ないことを悟るであらう。彼等は吾等の主權の前に跪き、吾等の主權を尊敬し、神と崇めるに至るだらう。吾等の手代が群衆の權利を侵すものでなく、主權者の命令を單に實行して居るのであることを彼等が確めた時に於て、特に然りである。群衆は考へ深い親が義務と服從との法則に依つて小兒を教育する如く、吾等が凡てを整理したのを見て滿足するであらう。

一五八　猶太の權力の絕對性

吾等の政策の祕密に關して無智なることに於て、群衆も亦た奴等の政府も恰も赤兒である。

諸君が見る通り吾等の專制は權利と義務との上に建設される。義務の完全なる履行を要求する權利を行ふことは、政府の第一の義務である。最も强い權利を有する政府は、自然の法則、卽ち服從の上に建てられた秩序に人類を導くのである。此の世に存在するもの凡ては何かに服從する。若し他の力に服從するでなければ事情に服從し、又は自らの性質に服從する。然り如何なる場合にも弱者は强者に服從する。其故に人類幸福の見地からしても吾等は最も强くならなければならぬ。

旣に確定された秩序を破る一個人を犧牲にするに吾等は躊躇してはならぬ。何となれば惡に對する懲戒的刑罰には敎育的の大きな意義が存在するからである。

一五九　猶太の血統に依る世界王

イスラエルの王が其の聖なる頭に歐洲が捧ぐる王冠を戴く時に、彼は全世界の族長となるのである。吾等の王が戴冠する爲には相當の犧牲者を必要とする。併し其の數は、數世紀に亙つて奴等の政府の吾等に對する反感と權勢の遂行との爲に供された吾等の犧牲者の數には決して及ばない。吾等の王は何時も人民と密接な接觸を保ち、講壇の上から演說をする。演說は直ちに全世界に擴められるのである。

教育の廢止

一六〇　教育の猶太マッソン化

吾等以外の凡ての集團力を破壞する目的で、吾等は集團主義の第一段階たる大學を廢止する。其の上で吾等の計畫に基く新しい大學を創設する。學長と教授連とは吾等の祕密の計畫に依つて、祕密裡に養成され、如何なる場合にも彼等が吾等の計畫の儘になる樣に仕組むのである。彼等、學長と教授とは特別の注意を以て任命され、吾等の政府には絕對服從を強ひられるのである。

政治問題と國法問題とに關する凡ての科目は、教育より之を除外する。此等の科目は特に選ばれた極く少數の人物に敎へるに止める。大學の門よりは喜劇や悲劇を作る態度で、政治問題を論ずる靑二才を出さぬ樣にする。政治問題に對しては奴等の祖先も決して理解することが出來なかつた。政治問題に對する認識不足から、奴等の多くは夢想家となり、又善良ならざる市民となつた。奴等の普通敎育が奴等を如何なるものにしたかを諸君は知つて居るであらう。過去に於ては、社會序秩

を弱める爲の各種の原則を敎育の中に紹介することが、吾等に取つて必要だつた。併し吾等が權力を握つた時に、敎育の中から、混亂を釀す總ての科目を避け、靑年をして、平和と平穩の支柱であり、希望である吾等の支配者を愛し、權力に對して絕對に從順なる小兒にすることが必要である。吾等は古典の學修を禁じ、又歷史は良い實例よりも惡い實例を多く提示するから、之を廢し、吾等の未來の計畫に關する硏究を始める。吾等は奴等の回想錄より、吾等に不都合な過去の出來事を除去し、唯に奴等の政府の過失を指摘したもののみを殘して置く。吾等は吾等の敎育の第一の計畫として、實生活、當然なる社會秩序、人民相互の關係等の硏究、社會惡の酵母たる利己的罪惡を避ける義務、其の他の敎訓的事項を擧げる。敎育は、職業に依つて區別し、如何なる口實を以ても敎育の畫一化を行つてはならない。

以上の問題は本質的に特に重要である。

一六一　階級の敎育

各階級は其の特有の目的と仕事とに依つて、嚴格なる制限の上に、敎育されなければならない。極く稀なる天才は、他の階級に轉入することが可能だつた。亦た今後も可能であらう。併し無能者が他の階級に入ることを許すことは、生來の天分と天職とに依つて其の位置にあるものの位置を奪

ふ結果となる。之は全く愚なことである。斯くの如き愚を許した奴等に取つて、如何なる結果が起つたか？　其は諸君も充分承知であらう。

一六二　吾等の世界的主權の爲の教育

奴等が心から吾等の主權を認める樣にする爲に、學校と公共の場所とに於て、吾等の主權の活動と其の計畫との利益を敎へることが必要だ。

一六三　私設教育禁止

吾等は凡ての私營敎育を廢する。學生は倶樂部に於ても、又學校に於ても、父兄と共に集まることを許される。此の集合に際し、又は祭日に、敎授連は所謂公開講義に依り、人民相互の關係と模倣との法則に關し、無制限なる競爭の弊害に就て講じ、最後に未だ世間に知られざる新學說に迄及ぶのである。

一六四　猶太的學說は獨斷

吾等は、新學說から一の獨斷を作り、夫れに依つて、奴等を吾等に對する信仰に導く。余が現在及び將來に對する吾等の行動の計畫の發表を終つた時に、余は此の學說の根據を申述べよう。

一六五　思索の自由の禁止

人間は思想に依つて生活し、思想は教育に依つて授けられて居るから、學修者の階級と年齢とに差異があつても、結局は教育は同じ効果を擧げる。此の事實を知る吾等は、吾等の利益の爲に奴等の獨創力を根絕するのである。吾等の計畫と目的との爲に、吾等は奴等の獨創力を物質的方面と吾等に必要な方面とのみに制限する樣にして來たが、此の奴等の獨創力の餘光をすら、吾等の利益の爲奪ひ取つて終ふのである。

一六六 皮相的教育―實物畫教育

奴等の思索を壓迫する方法は既に嚴格に行はれて居る。例へば實物畫教育と呼ばれる方法で、奴等の思索力は弱められて居る。此の教育に依つて奴等は繪を提示されなくては、何事も理解出來ない樣な動物になつた。佛蘭西に於ては、吾等の最も尊敬すべき手先、ブルジョア氏が此の新式實物教育の實施を發表した。

プロトコール　第十七

法學者と宗教家との信用失墜の方法

一六七　法學者と辯護士

辯護士制度は、冷酷な、慘酷な、又た頑固な、如何なる場合にも人情味を捨てゝ純法律的な方面に走らうとする人間を養成する。彼等は、社會の利益の爲でなく、單なる辯護の爲に凡てを處理することに慣れて居る。彼等は如何なる辯護でも拒絶することなく、法律の微妙さを利用して、如何なる代償を拂つても無罪にする様に努力する。之に依つて、彼等は法廷を墮落させて了つた。其故に吾等は此の職業を狹い範圍に限り辯護士を執行官に任じよう。辯護士は司法官と同じく訴人と交渉する權利を剝奪される。彼等は法廷より事件を受取り、法律的文書と報告とに依つて事件を調査し、法廷に於て彼等の顧客を審問し、事件が明瞭になつた上で辯護に從事する。斯の如くして利害に依らず、證據に依つて指導される正しい公平な辯護が行はれるであらう。之に依つて現在の陪審制度の腐敗をなくすることが出來る。而して陪審官が多額の金を拂ふ者に事件の勝利を導くことに

満足することなどの事例は失くなるであらう。

一六八　非猶太人僧侶の不評判

基督教僧侶の信用は吾等に依つて破壊され、彼等の使命も臺なしになつた。彼等僧侶は吾等にとつて實に厄介物である。

一六九　信教の自由―基督教の破壊

併し彼等のゴイムに對する勢力は日一日と弱められた。信教の自由は到る處で叫ばれ、其故に日ならずして基督教は完全に破壊されるであらう。吾等は其處で他の凡ての宗教を破壊する。併し、此のことを公然に發表するには未だ早過ぎる。吾等は僧侶と基督教的教育とを弱め、人民間に於けるその勢力を昔の偉力がない様にする。

一七〇　法王廳に對する猶太の計畫

法王の宮殿を徹底的に破壊する時が來た時に、見へざる吾等の手は宮殿を指し、奴等を一揆に導く。併し群衆が宮殿に集つたら、吾等自ら法王の保護者の如く現はれ、流血の慘事が起らぬ様にするのである。此の牽制運動に依り吾等は其處に入り込み、凡てが破壊される迄は、吾等は去らない。

一七一　猶太の王は世界的信教の眞の王

吾等のイスラエルの王は世界の眞の法王であり、國際教の神父である。

吾等は奴等の青年を過渡時代の新しい信敎に導き、其の上で吾等の宗敎に導くのである。吾等は現在の宗敎には直接手を觸れることをせず、批評に依り、又紛爭を煽動することに依つて彼等と對抗する。

一七二　猶太的新聞の破壞的使命

國家的事件や宗敎問題に對する奴等の無能を吾等は吾等の新聞に依つて曝露する。曝露に當つては吾等の天才的人物のみが知る各種の方法を以てし、最も不正直なる言を用ゐるのである。

一七三　警察制度

吾等の政府は印度の神ヴィシューヌー神に似て居る。吾等の百の手の各々は、國家の社會的機關の一つ一つを握る。吾等は公式の警察の助けなしに總てを見る。吾等は公式の警察を腐敗させ、奴等の政府にとつて社會の事情を觀察する際に役立たぬものとした。吾等の時代に於ては全人民の三分の一が他の三分の二を監督する樣な仕組みにする。彼等三分の一の人間は義務の觀念からと、進んで國家奉仕の意思から、監督に從事するだらう。吾等の時代には間諜となり、又た密告者となることは恥ずべきでない。反つて夫れは褒めらるべきである。併し誤つた密告に對しては密告の權利の

濫用を戒める意味より重罰を課する。

吾等の手先は上流階級からも下流階級からも採用される……官吏からも出版者からも、印刷業者からも、書籍業者からも、手代からも、勞働者からも、馬車屋からも、下僕からもと謂ふ様に……。警察は全く權利を剝奪され、自ら行動することは出來ず、又其れ故に何等の勢力も有せず、單に證據を擧げることと告發することと以外には何もしない。供述の審理と逮捕とは責任ある警察事務監理人の團體に委任されて居る。逮捕のみは憲兵隊と都市警察とに依つて爲される。政治問題に關する見聞を報告しない者に對しては、若し彼が隱匿、或は共犯の嫌疑が濃厚な場合には之を罰する。

一七四　カハル―間諜制度の模範

吾等の仲間は背信者及び吾等に反感を持つ者を責任を以て告發する。吾等の世界王の國家に於て斯くの如く國家に仕へることは人民の義務である。

一七五　官吏の權力濫用

吾等は組織に依つて凡ての權力の濫用を廢し、吾等の手先と吾等の超人的法則の學說に依つて奴等の習慣の中に導入した腐敗を破壞して了ふ。……權力の濫用、奴等の慣習の腐敗は社會的混亂を醉す爲に吾等が用ゐて來たのであるが。……吾等の目的を達成する爲に他に如何なる方法があつた

だらうか。……社會制度を腐敗させる方法の中で最も重要なるは、吾等の最高手先の使用である。彼等は、偏狹、權力の濫用、特に最も重要なる收賄等の惡傾向を啓示し、詳說することに依つて、他の手先を感化することを許される。

プロトコール　第十八

混亂の醱生

一七六　ソヴェート露西亞に於けるオフラナ制度

吾等の時代にあつては、現在の露西亞に於けるオフラナ（儀仗兵）の如き特別警備を必要とする時に、（特別警備は國家の威力を破壞する害毒である）吾等は反つて混亂を裝ひ、吾等の雄辯家に依つて不平を表明する。同樣の思想を有する者は、雄辯家の言に同情する。之に依つて、吾等は搜索と監視とをする吾等の手先は、吾等の警察の中にも入り込ませる。

一七七　煽動家の監督

煽動家の多くは、單に煽動の爲に煽動をし、辯舌の爲に饒舌するのである。吾等は奴等が何かの

實行運動に移る迄は彼等に決して邪魔を入れない。

吾等は單に奴等の間に監視人を送るに止める。權力に對する陰謀のあつたことを公けにすることは、權力の威光を下げるものである。又其れは權力の無能を告白するものであり、尙ほ恐るべきことは、權力の活動の不正なることを自ら發表するものである。此のことは決して忘れてならぬ。諸君も知つての通り、吾等の手先たる盲目の羊に依つて企まれた度々の陰謀に依つて、吾等は奴等の統治者の威嚴を破壞した。斯の如き人物を罪に導くには、政治的色彩を有する自由の述語を使へば、それでよい。奴等が現在用ゐてゐる特別警備の方法に依つて、吾等は現存の元首の權力の威光を失はしめる樣にする。

一七八　猶太王の警護

吾等の時代が始まつた時に、吾等の王は、人民に感附かれぬやう、秘密の警備團に依つて護られる。それは吾等の政府が自ら對抗が出來ず、隱れなければならぬ陰謀を有してゐると謂ふ思想を、人民に起させないやうにする必要があるからだ。若し、奴等が過去と現在とに抱く思想を、吾等自ら承認するならば、吾等の主權でなくとも、少くも近き將來に、來るべき吾等の專制に死刑を宣告するを、吾等自らが承認するやうなものだ。

外觀のみに依れば、吾等の政府が權力を行使するのは、個人的又は專制的利益の爲にするのでなく、全く人民の幸福の爲にするやうに見える。吾等の王の卽位に當り、人民が吾等の政府の權力を尊敬し、自ら進んで警備するのは以上の理由からである。又、人民は自分達の幸福が全く吾等の政府に懸つてゐると考へて、吾等の政府を崇めるのである。社會の秩序と經濟とは全く吾等の政府にかかつてゐるのであるから、公然と王を警備することは、政府組織の脆弱なるを自認するものである。吾等の王が人民の中にある時には、好奇心から王の廻りに集つて來るやうに見える男女の一團が、王を取卷き、偶然であるかのやうに、彼等は王の廻りの第一列を占領し、秩序を維持する爲に、他の列を王から遠ざけるやうにする。之は人民の謹愼の模範となる。若し、人民の中に列を掻き分け請願書を王に差出さうとする者のある時には、第一列目にある一人が其れを受取り、請願者の目の前に於て王に渡さなければならない。之に依て、總ての人民が彼が差出すものは必ず王に屆き、其れ故に、王自ら政治を監督することを知る。「王が御存じである」とか「王が御存知になるだらう」とか、人民が考へる所に、權力の偉光が存在する。

公然的警備に依れば、主權者の身に漂ふ不可思議な偉光は失はれる。大袈裟な警備を見れば、刺客は自らが主權者より强いと信ずる爲に、特別に大膽になる必要もなく、自力を信じ、陰謀を實行

する機會を狙ふ必要もないと思ふやうになる。奴等の間に吾等は全く反對なことを宣傳した。公然的警備方法に依つて奴等に如何なる結果が起つたか、吾等は能く知つてゐる。

一七九　政治犯罪人の逮捕

極く僅かな嫌疑を以て吾等は罪人を逮捕する。誤つて刑罰することを恐れて、政治犯の容疑人物を逃がして終ふことは、許さるべきでない。之に對して、吾等は全く容赦しない。若し此の例外的（政治犯罪の）場合にも、犯罪者を普通法律に依る刑罰に問ふことが出來るならば、元首以外の如何なる人物も理解することの出來ない政治問題に携はる口實が全くなくなるのである。現在に於ても各政府は政治の眞髓を解しない。

プロトコール　第十九

民衆と其の指導者

一八〇　報告と請願の提出權

吾等は各人が直接に政治に從事することを許すべきでないが、報告と請願とは之を許し、之を人

民の狀態を改良する爲の政府の資料とする。吾等は要求の問題を實行することに依るか、報告者の無智を證明する批評に依つて之に答へる。

一八一　謀反の制止

謀反は大きな象に小犬が吠える位のものである。警備の點からでなく、社會的見地から、能く秩序を保つた政府にとつて、小犬は象の眞價を知らない爲に吠えるに等しい。象が一度其の眞價を示めせば、小犬は吠えることを止め、象が近づくのを見て尾を振るのである。

一八二　政治犯罪の輕蔑

政治犯人は英雄的勇敢さを持つてゐるが、其の偉光を失はしめる爲に、吾等は此種の犯罪も、竊盜、殺人、其の他の忌はしい犯罪と同列に置く必要がある。さすれば、輿論は此の種の犯罪と他の不面目との區別をせず、同樣な輕蔑を政治犯罪に與へるやうになる。吾等は奴等が叛亂を防ぐ爲に此の方法を採用することを妨げる爲に努力し、成功した。

以上の方法を行ふ爲に、吾等は新聞を、公開の演說を、又た巧みに作られた歷史教科書を利用した。革命家が人類の幸福の爲めに死んだ時に、吾等は彼が英雄であると宣傳した。此の宣傳に依つて自由主義者の數は殖え、奴等の數千人を吾等の信者の仲間に入れることが出來た。

プロトコール　第二十

金融

一八三　財政學說と課稅

今日、余は、余の報告の最終まで保留した點、即ち吾等の計畫の終局であり、結論であり、又、最も難解なる點を述べよう。

先づ、余が曩に仄めかした問題、即ち吾等の行動の總ては計數に依つて解決されると謂ふ言葉を再び繰返したい。

吾等の時代が來た時には、吾等の絕對政治は、自己防衞の爲から人民に重稅を課することを避ける。政府は、人民にとつて父であり、保護者であることを忘るべきでない。

一八四　財產に對する累進課稅

併し、政府組織が多額の費用を要するものである故、何等かの財源を必要とする。それ故に、吾等は財政の均衡を保つやう注意を要する。

吾等の政府に於て、王は國家内にある總ての財產の正式の所有主たるべきである。（これは容易に實現され得る。）王は國家内に金を適當に流通させる爲に、（卽ち、金の停滯を來たさざるやうに―譯者註）必要な金額を徵發することを得る。それ故に、課税は財產に對して、累進的に行はるべきであることが解る。斯くすれば、課税は所有物の高に比例して、何等の妨害なく徵收されることが出來る。金持は、國家が其の財產と正當なる所得の權利とを護る故に、それに對して、彼等の所得の一部を國家に納める義務があると考ふべきである。余が謂ふ正當なる所得とは、財產を總ての掠奪から合法的に保護することである。

この社會改革は、社會平和の保證として必要な原則であり、猶豫なく行ふべきであるから、吾等の計畫の第一に置かなければならぬ。貧乏人に課税することは革命の種であり、國家にとつて何等の利益を齎らさない。之に依つて、國家は小さな所得を得る爲に、大きいものを見逃す結果になるであらう。資本家に重税を課することは、個人の富が增大することを防ぐ役をする。吾等は、現に資本家の手に富を集中したが、之は單に吾等の政府の力、卽ち奴等の政府の財力に對抗するものを作る爲である。昔の割當課税に比較すれば、累進課税は大きな收入である。奴等の間に一揆を起させ、不平の聲を發せしめる時に、吾等はこの割當課税を利用したのである。

吾等の王が頼みにする力は、勢力の均齊と平和の保證との中に存在する。國家の必要は、其の富の許す人に依つて拂はれなければならぬ。

以上の方針に從つた課税を行へば、貧乏人が金持に對して反感をもつことがなくなる。又同時に國家に必要なる財源が捻出され、平和は維持され、國家は繁榮するに至る。何となれば、之に依つて、公共の利益の爲に必要なるものを提供するのは、金持であることを知らしめることが出來るからである。有識階級の納税者が、新税に關して不審を懷かぬ樣する爲、總ての支出項目を報告する必要がある。朝廷の費用、政府機關の支出等は勿論例外であるが……。

國家內にある總ての財産は王のものであるから、王に個人的財産は全然必要がない。王に若し、個人的財産があれば、王が國家內の凡ての物を所有すると謂ふ事實が否定される結果になる。

王の家族は、國家の費用で生活するが、彼等の中の王位繼承者を除いては總て國家の官吏となるか、收入を得る爲に働くべきである。

王の家族に屬するといふことは、國家の金庫から徵發する口實にならぬ。

一八五　累進印紙税

財産の賣渡、相續の受託には、累進的印紙税が課される。印紙税を納めなかつた金錢其の他の財

産讓渡に對しては、讓渡の日附より、脫税の事實の發見された日に至る期間、前所有主に一定率の税が課される。總ての讓渡證書は、新舊所有主の氏名を記載して、一週一回づつ所在地の會計院に提出さるべきである。取引の當事者の氏名の報告は、取引が或一定の額以上に達した場合に限られる。必需品の購入の際は、其の品物の價格に對して、極く低率の簡單な印紙税が徵收される。

扨て以上の如き徵税法に依つて徵收された收入が、奴等の政府の現在の收入の何倍の多額に當るかを注目せよ。

一八六 國　　庫

國庫は、其の有する準備金を以て工業を行ふ。國家の財源に依つて行はれる此の種の事業の發案に依り、國家的利害と王と勞働者階級とが堅く結び付けられる。金額の一部分は、發明と生産奬勵との爲に與へられなければならぬ。

國庫に、一定額以外には一文の錢も殘すべきでない、何となれば、錢は流通の爲に發行されたもので、錢の停滯は國家機關の運行上に惡影響を與へるからである。錢は國家機關の活動を圓滑にする爲の油である。注油を誤まれば機關の正しい運轉は止まつて終ふ。

有價證券を以て貨幣の一部に換へたので、現に貨幣の停滯が甚しくなつてゐる。此の停滯の結果

は既に充分知られてゐる。

一八七　會計檢査院

次いで、吾等は會計檢査院を創設する。之に依つて王は如何なる場合にも、國家の收入と經費との完全なる報告書を見ることが出來るやうする。未決算の今月分の報告と未拂の前月分の報告とは例外である。

國家の財産を掠奪することに興味をもたない唯一の人物は、國家の所有主たる王であるから、王が監督されるなら、國家は損失と浪費とから逃れることが出來る。

一八八　謁見廢止

總て謁見は儀禮的で、王の貴重なる時間の損失であるが、吾等の王は、國事を監督し、思考の餘裕を得る爲に、謁見を制限すべきである。王の寵臣は、王位の周りを取り捲き、王に華美を強ひ、國家の利益でなく、彼等自身の利益にのみ注意するものであるが、吾等の王の力を彼等の思ひの儘に委して置いてはならない。

一八九　經濟界に於ける停滯

吾等は、奴等の間から金を絞り取り、多類の資本を停滯させ、各方面に經濟的危機を起させた。

國家は、公債に依つて、貨幣を捲き上げられた。然して、政府が金を必要とする時には、吾等の助けを借りなければならなくなつた。公債は、政府の財政に、利子の支拂の義務を負擔させる。公債の爲に政府は資本の前に屈從することを餘儀なくされる。工業を資本家の手に集中することに依つて、小工業を殺して終ひ、人民の力の總てを之に吸收し、又同時に國家の力の總てをも吸收して終つた。

一九〇 貨幣の流通

現在の貨幣の發行高は、各人の消費に應じたものでなく、其れ故に、勞働者の要求を滿たすことが出來ない。貨幣の發行高は人口の增加に應じたものとすべきである。生れた瞬間より消費する赤子でも數に加へなければならぬ。貨幣制度の改革は全世界の最も重要なる問題である。

一九一 金本位制

諸君も知つての如く、金本位制は、之を採用する政府にとつて危險なものである。何故なら、之に依つて貨幣の需要を滿足させる事が出來ず、倘ほ吾等が出來得る限りの金を金融界から引去つて終つたからである。

一九二 未來の貨幣

吾等の時代には、一國の勞働力の割合に從つて貨幣を造る。其の時には貨幣が紙であつても、木であつても構はない。吾等は、人民各々の要求に依つて發行し、一人が生るれば貨幣を增發し、一人が死ねば之を回收する。

人口の增減の報告は各地方廳から之を爲す樣にする。

一九三　奴等の財政

國家の經費の支拂が遲延することを防ぐ爲に、國家は支拂額と支拂期日とを命令に依つて定むべきである。斯くして、大藏省と他省との間の情實關係を一掃する。

收入と經費との報告は、常に比較され得るやうに、對照して之を爲すべきだ。

吾等が奴等の財政改革案を提出する時に、何人をも驚かさぬ樣にすべきである。吾等は、奴等の財政的紊亂に依つて難局が起つた爲に、改革の必要があることを示す。最初の財政的混亂は何處から起るか。豫算は、次の如き理由で年一年膨脹し、遂に政府は之を停止するの餘儀なきに至る。政府は前半年は豫算を其の儘實行するが、次いで殘高を三箇月間に浪費する爲に、更に修正豫算を要求する。卽ち追加豫算を要求し、遂には破產的豫算に導かれる。翌年の豫算が普通豫算の總額に依つて決定され、追加が普通豫算年額の五割であるから、各年の豫算は十年每に三倍に達する樣にな

る。奴等の政府の無頓著に依つて行はれる斯の如き方法に依て、奴等の金庫は空になつた。次いで公債の發行に依つて、殘りの財産も喰はれて終ひ、國家全體を破産に導くのである。

一九四　現政府の公債

公債は凡て政府の無力を證明するものであり、政府自ら其の權力を了解せざるの結果である。公債は、デモクレスの劍の如く、元首の頭の上にぶら下つてゐる。元首は臨時課税を人民に課する代りに、手を延べて、吾等の猶太銀行家の慈悲を仰ぐのである。外債は蛭である。此の蛭は、蛭自ら落ちるか、政府が思ひ切つて夫れを拂ひ除けようとすることを努力せざる限り、決して國家の體から離るるものでない。けれども、奴等の政府は、蛭の外債を振り掃はふとせず、自ら招いた流血の爲に、國家が瀕死の狀態に陷らうとしても、政府は外債に縋り附くのである。

實際問題として公債とは何であるか。特に外債とは何であるか。公債は、政府の發行する約束手形である。公債は借用した元金に對する幾何かの利子を拂ふ義務を負ふ。公債が五分利であるとすれば、政府は二十年間に元金と同額の利子を拂ふ。四十年間には其の倍額、六十年間に其の三倍の額を拂ふ。而も元金は依然として償還されない。

そこで、政府は一般課税の方法に依て、人民から最後の一錢迄絞り取り、外國資本家との關係を

決濟しようとする。政府が利子なしに同じ金を最初から必要に應じて人民より集める方が優つてゐるのである。

公債が內國的である限り、奴等は、單に其の金を貧乏人の懷から金持の懷に移したに過ぎない。けれども、吾等が公債を國際的にする爲に、其の筋の人を買收したときに、國家の全財產は吾等の金庫に移されるのである。さうして、奴等の凡ては吾等に平伏して、貢物をするようになるのである。奴等の支配者の國務上の輕卒と、其の大臣の腐敗と、其の官吏の財政問題に關する無能とは、其の借金を、到底支拂ひ了ることの出來ぬ程度に迄、吾等の銀行から借入るべく其の國民を餘儀なくした。奴等を斯く導く爲に吾等が如何に費用を惜まなかつたか、又如何に努力を拂つたかは、諸君も知る筈だ。

一九五　未來の政府の公債

吾等の時代の到來した曉には、吾等は金の停滯することを許さない。又國家の力を蛭の吸ふに委せないようにする爲に、一分以上の利子を拂はないやうにすべきである。債券を發行する權利は、其の利益を以て利子を拂ふに困難を感じない工業會社にのみ與へられる。何となれば、政府は事業を起す爲でなく、支出の爲に借り、借りた金から何等の利益を擧げることが出來ないからである。

一九六　工業債券

工業債券は國家に依つて買はれる。國家は現在は租税の徴收者であるが、之に依つて亦債權者たり得るのである。斯くして、貨幣の停滯、寄生的生活、怠惰等は根を絶つ。

一九七　奴等の財政的無能―奴等の爲政者は猶太マッソンの手代を要す

動物的に低腦な奴等の思索力の缺乏は、次の様な場合に明らかとなる。即ち、奴等は借りた元金に同額の利子を合せたものを、其の金庫の中から吾等に拂はなければならぬことを考へずに、吾等から利子附の金を借りるのである。政府は必要な金額を其の納税から捲き上げた方が、最も簡單ではあるまいか。

此れ實に、吾等の天才を證するものである。何となれば、吾等は外債問題を、奴等自身の爲になるものに見せかけることが出來たからである。

吾等の時代が到來したとき、吾等が提出する豫算は、奴等の政府の負擔を以て吾等が數世紀に亙つて實地に經驗したところに基いてゐる。吾等の豫算は、吾等の新政府の利益を實證するものであり、之に依つて奴等の政府を弱める爲に吾等に仕組まれた吾等の政府には全く望しくない權力の濫用を廢することが出來る。

吾等は、吾等の財政制度を能く建設し、元首も又極く低い官吏も、僅かな金額をすら豫算外に流用することを禁じ、又用途が一度吾等の計畫に指定された時には、之と違つた用途には向けることが出來ぬやうすべきである。

定つた計畫なしには統治をすることは出來ない。目的に邁進する英雄も、其の進むべき道を知らず必要な資金なしには途上に迷ふ。吾等は奴等の國家の元首を取卷き、彼の注意を國事から離し、彼を儀禮的謁見、各種の儀式、及び娯樂に耽るよう誘惑した。斯の如き奴等の元首は、吾等にとつて、吾等を守る衝立の役をする。奴等の元首に代つて國家の政治をする寵臣の報告書は、吾等の手代に依つて作成されるものであり、未來に貯蓄すれば宜いと謂ふ理由で、先の見えぬ人間を滿足させる。……「何を貯蓄するのであるか。」……「新しい公債を貯蓄するのであるか。」……と疑問を抱く人もあらう。けれ共、吾等の報告を讀む奴等は、何等の疑問も抱かない。奴等は其の無頓著に依つて、財政的混亂に陷り、奴等の人民の努力に拘らず、破産の憂目を見る。此のことは諸君も承知であらう。

プロトコール　第二十一

公債と借款

一九八　國　債

余は再び前會議よりの說明を續け、更に內債に關する詳細なる說明を附け加へやう。外債に就ては、最早、余は何事も述べることをしない。何となれば、外債は奴等の國家の金を以て吾等の金庫を滿たすに過ぎず、吾等の國家にとつて、外國は存在せず、其故に外國的な何物も存在しないからである。吾等は奴等の政府に國家の必要とせざる金を貸し、彼等から二倍三倍或は夫れ以上の金を捲き上げるのである。政治家の腐敗と元首の無頓著とは吾等に全く利用された。吾等に對して、如何なる國家が斯くの如き仕事を爲し得るだらうか。勿論何事も爲し得べきでない。其故に、內債以外のことを玆に詳しく說明するの要がない。

公債を發行しようとするときに、政府は其の債券の賣出に對する申込を受けるのであるが、公債が如何なる人にも容易に手に入るやうに、額面を極く低額にする。其れと同時に最初の申込に對し

ては、割引をする。翌日には故意に價格を引上げ、全國民が申込に殺到したやうに見せ掛けるのである。數日後には政府の金庫は一杯になり、金の置所に迷ふに至る。(其れでは何故に之を受けるのであらうか。)申込高は屢々公債の發行高を越える。政府發行の約束手形に對する信用は斯くの如きものである。

一九九　政府の債務と課税

併し、此の喜劇が演ぜられたとき、政府には單に重い債務が殘り、其の利子を拂ふ爲に再び新しい公債を發行することを餘儀なくされる。此の新しい公債に依つても、元の債務を決債することは出來ず、單なる債務の增加を來すに過ぎない。政府が信用を失ふときは、新なる課税を設け、元金でなく元金の利子の返濟に充てなければならない。此の課税は債務を決濟する爲に設けられる債務である。

二〇〇　公債の借替と利子の顚落

聽ては、公債の借替を行ふべき時が來る。此の借替に依つて、單に利子支拂を少くするのみで、元金の決濟をすることは全く出來ない。又、此の借替は債權者が同意しなければ、之を爲すことが出來ず、借替の發表があつた時に、證劵の借替を欲しないものは其の元金の取戻を請求する。若し

も凡ての債權者が彼等の金を取戻さうと云ふ希望を發表するならば、政府は自らの網に掛り、債權者が要求する金を支拂ふことが出來なくなる。幸ひに奴等は財政問題に就ては餘り通曉せず、新しい投資の危險を冒すよりは、爲替の損失と利子の低下とを選んで居る。若し新しい投資をすれば、奴等は其の政府に一度ならず數百萬の缺損から解放させる可能性を與へた筈である。

扨て外債に於ては、奴等の政府は以上の如き洒落れた眞似は出來ない。何となれば、奴等は吾等が凡ての元金の返濟を請求することを知つて居るからである。

二〇一　國家の破產

斯くて破產は起り、人民と國家との間に何等の利益關係がないことが知れる。

以上の事實と、次に余が說明せむとする事項とに注意を向けるやうに、余は諸君に切望する。

二〇二　國債の整理―短朝公債

現在內債の凡ては比較的期限の短い、所謂短期公債と謂はれるもので整理されて居る。公債は、貯蓄銀行にある金と準備金庫にある金とから支出される。斯かる金が政府に入り、長い間政府の手の中にあれば、單に外債の利子を拂ふ爲に費消されてしまふ。而して其の後に同額の公債を以て充當される。

奴等の政府の會計の凡てに穴をあけるのは、此の公債である。

二〇三　資金取引所の廢止

吾等が世界の王位に登つた時に、之等の財政のカラクリを跡形もなく廢止してしまふ。何となれば、之は吾等の利益でないがらである。吾等は同時に公共の資金取引所を廢止する。何となれば、有價證券の價格の變動に依つて吾等の權力の威光が動搖するやうなことがあつてはならぬからである。有價證券の價格の動搖のないやうに、法律で決めなければならぬ。（騰貴は下落の基となる。其れ故て吾等の活動の初めに於て吾等は奴等の證券を弄んだのである。）

二〇四　工業債券の課税

吾等は取引所の代りに公共信用組合を設ける。其の目的は、政府の觀察に從つて、工業債券に課税するにある。此の組合は一日五億の割合で工業債券を市場に賣出し、斯くすることに依つて凡ての工業的企業を吾等の思ひの儘とする。之に依つて、吾等が如何なる權力を得ることが出來るか、諸君には想像がつくであらう。

國際金權支配の福祉

余が今迄に説明して來たことに依つて、余は過去及現在の祕密的出來事の眞相を諸君の前に提供しようとした。凡ては運命のまにまに動いて居るが、吾等は近き將來に結果を見ることが出來る。吾等と奴等との關係と吾等の財政的活動との中に、吾等は吾等の計畫の祕密を漏した。此の問題に對して今は殆んど言ふべき何物もない。

二〇五　時代の祕密―猶太的計畫と財政政策

二〇六　多額の金―未來の繁榮の素

吾等は吾等の手中に近代的國家の最も偉大なる力、即ち金を獲得した。吾等は吾等の欲する如何なる額でも吾等の金庫から二日の猶豫があれば持つて來ることが出來る。

吾等の政府が神に選ばれたことは、證明の要があるだらうか。吾等の眞の幸福を得る爲に、數世紀の間、使用しなければならなかつた凡ての惡を、今、吾等の偉大なる富の力を以て、整理し得な

いだらうか。秩序は建設されるであらう。多少の暴力に依るに拘らず、遂に夫れは成功するだらう。吾等は此の苦惱の地上に、眞の幸福と個人の自由とを獲し、同時に吾等に依つて制定された法律を履行すると云ふ條件で、平和と個人間の尊嚴とを保障し、眞に吾等が恩惠者であることを證明するのである。吾等は自由とは暴飲の權利の中に、又は放縱の權利の中に存するものでないことを說明しよう。又同時に、個人的尊嚴と個人的の力とは、信教の自由、平等の權利、其の他の破壞的法則等を要求する權利でないことを說明しよう。又同時に、個人的權利は、騷々しい集會に於て辯舌的才能を示し、自らと他人權とを煽動する權利でないことを說明しやう。眞の自由は、團體生活の法則を、正直に、又正確に、守る人を保護する處に存する。個人的尊嚴は、其の權利の認識と、無權利の權利の認識とに存し、かの自我と謂ふ思想を好奇的に發展させることに存するものでない。

二〇七　群衆と神權との上にある猶太の力

吾等の支配は光輝あるものである。何となれば、其の力は強く、又夫れに依つて統治をし、指導をすることが出來るから、又、吾等の政治を雄辯家や群衆の指導者の指導に委せて置かないからである。彼等は愚かなことを叫び、大きな主義を唱へ、本當の意味から言つて夢想家に過ぎないのである。吾等の力は凡ての人類の幸福と秩序とを創めるの強制者である。此の權力の威光は人民の尊

撤を集める。眞の力は、他の如何なる權利、卽ち神權にすら屈服しない。此の權力の一部分でも減らさうと努力するものは居ない。

プロトコール　第二十三

國際金權の金縛り

二〇八　贅澤品製造の制限

奴等を服從に慣らす爲には、奴等に節儉を奬勵しなければならず、吾等は贅澤物の生産を制限することにする。之に依れば奢侈の競爭に依つて腐敗した習俗を革めることが出來る。

二〇九　小工業の再建

吾等は工業家の私有資本に害を與へる小工業を再び創始する。現在に於ては、大工業家が無意識の中に群衆を反政府運動に導いて居るので、工業家の私有資本と謂ふものは吾等に必要である。

二一〇　失業

小工業に從事して居る國民には失業はない。彼等は既存の秩序に密接に從屬し、又其れ故に權力

に從屬して居る。失業は國家にとつて最も危險なものである。失業に依つて權力が我等の手に移つた瞬間に、失業そのものは其の役目を終るのである。

二一一　暴飮の禁止

アルコールに醉ふことは法律に依つて禁じられ、破廉恥罪として罰せられる。何となれば飮酒に耽る人間はアルコールの力に依つて獸的になるからである。

余は再び謂ふ、人民は彼等より完全に獨立した強い手にのみ盲目的に服從する。此の強い手の中に、社會混亂に對して彼等を護り、彼等を支へる劍がある樣に群衆は考へる。人民は其の王に天使の如き善良な人格を要求するだらうか。却て彼等は王の中に力と權力との化身を求めるのである。

二一二　現存政府の崩壞―猶太の主權の建設

吾等に依つて腐敗させられた社會の眞只中に存在を續けて居る現在の政府は、神の力をすら否認し、中に無政府の焰を抱き込んで居る。そこで吾等の主權は其に代り、先づ燃え上る無政府の焰を消さなければならぬ。斯くするために、奴等の血をすら流さなければならぬ。其の上で國家組織を破壞する無政府と鬪ふ爲め能く訓練された軍隊の如きを再興さすべきだ。

二一三　神選に依る猶太の王

此の神選の王は上天より命ぜられる。而して理性に依らず本能に依り、又人間性に依らず野獸性に依り養はれた盲目力を破壞する。此の盲目力は現在に於ては勝利を博し、掠奪を行ひ、自由と權力との名の下に總ての暴威を振つて居る。此の盲目力は、社會に於ける總ての秩序を破壞し、其の廢墟の上にイスラエルの王の王座を設けた。併しイスラエルの王が王座に登る瞬間に、之等盲目力の役目は終る。そこで王の道から之等盲目力を排除しなければならぬ。王の行く手には如何なる小さな障碍もあるべきでない。

其處で吾等は人民に次の如く言ふ事が出來る。「神に感謝せよ。而して額に神の徴を持つ人物の前に跪け。神が王を選ぶに當つて、神自身が其の星を御差向けになつたが、神選の王以外の如何なる人物も凡ての力と凡ての惡とから諸君を救ふ事が出來ない」と。

プロトコール 第二十四

吾等の王

二一四 ダヴィデの王統を確立する法

扨て世界の終に至る迄絕ゆることのないダヴィデの王統の根を固める方法に就て述べよう。現在迄吾等の賢人が世界の事件を指導して來たが、吾等も同じ方法を講じやう。卽ち吾等は全人類の思想を指導しよう。

ダヴィデの民族に屬する數人の賢人が、王と王の後繼者とを準備する。後繼者は必ずしも世襲權に由らず、特に其の素質に依るべきだ。賢人は王と其の後繼者とに、政治の祕密と政府の計畫とを注ぎ込む。而して祕密が他人に漏れぬ樣にする。斯くする目的は政治が祕密を授けられぬ者に委さるべきでない事を凡ての人が知る所にある。

政治的計畫の適用と數世紀に亙る經驗の理解と國家經濟の原則の觀察と社會科學と、つまり自然其のものが、人民の關係を處理する爲に決めた法則の精神を、王と其の後繼者にのみ敎へるのだ。

二一五　世襲の廢止

若し學習時代に、後繼者が輕卒であつたり、氣が弱かつたり、又政治に適せず、王として不都合な性質を持つて居る事が知れた場合には、王位から遠ざけるべきである。殘忍と謂はれる程に堅固な斷乎たる政治を行ひ得る者のみが、吾等の賢者から政治の手綱を受けることが出來る。

王が精神の脆弱を來す如き病氣に罹つた場合には、法律を以て彼が政治の手綱を他の有能なる人

間に渡す事にすべきである。王の直接行動の計畫と將來の計畫とは、王の第一の顧問官にも知らしむべきでない。

二一六　猶太王と三人の扶育者

王と王の三人の扶育者とのみが未來を知る。

二一七　全人類の運命の化身―猶太王

王自身の主人であり、又人類の主人である王の人格は、確固たる其の意志に依つて他人の知らさる運命の方向を知つて居ると萬人が信ずる。王が其の命令を發する時、王が何を目的として居るか何人も知らない。其れ故に其の知らない道に何人も邪魔をしようがない。王の智能は其の委された政府の計畫に相應したものであるべきだ。其れ故に王は吾等の賢者に依る試驗に依つて保證される時に始めて王位に登る事が出來る。

人民が王を知り、王を愛する樣にする爲に、王は公共の場所に於て人民と會見すべきである。之は王と人民と、此の二つの力の必然的な團結を作る。現在に於ては、吾等は、此の二つの力を、恐怖を介在さして離間した。

恐怖は未だ暫くの間吾等にとつて必要である。二つの力が別々になつては唯吾等の勢力の中に落

込むのみだ。

二一八　猶太王の人格

イスラエルの王は決して感情に支配されてはならぬ。特に色慾の支配する儘となつてはならぬ。如何なる場合にも王の本能が其の理性を支配する樣な事を許すべきでない。色慾は智的能力と觀察力との明敏性さに害を爲す。其の爲に人類は考へを人類の活動の最も劣等なる、又最も獸的な方向に向ける。人類の柱石たるダヴィデの聖なる種族に依る世界王の人格は、其の人民の爲に凡ての個人的趣味を犧牲にすべきである。

吾等の主權は非難の打ち所のない模範たるべきである。

定期刊行物

『猶太研究』（會員頒布）

東京都麴町區內幸町・幸ビル內

國際政經學會刊行

昭和十八年七月二十日印刷
昭和十八年七月二十四日發行

（非賣品）

無斷禁轉載

編輯兼發行人　東京都麴町區內幸町　幸ビル內　蘇理伊太郎

印刷人　東京都豐島區西巢鴨二ノ二七一二　山下謙之助

印刷所　東京都豐島區西巢鴨二ノ二七一二　合資會社光文社

發行所　東京都麴町區內幸町　幸ビル內　國際政經學會
電話銀座一二一八番
振替東京八一一八五八番

（東東1853）

[illegible]